



高文連

第 1 号

山口県高等学校文化連盟

高文連

第 1 号

も く じ

あいさつ	山口県高等学校文化連盟会長 五十部益	1
山口県高等学校総合文化祭の報告と記録		
器楽・管弦楽部門		2
合唱部門		4
吹奏楽部門		6
マーチングバンド・バトントワーリング部門		8
日本音楽部門		11
吟詠・剣詩舞部門		13
演劇部門		15
囲碁部門		17
美術・工芸部門		19
書道部門		23
写真部門		26
山口県高等学校文化連盟自主事業一覧		28
第13回全国高等学校総合文化祭記録		29
参考資料		
第4回全国高等学校／文芸コンクール都道府県別応募状況一覧		32
文芸評論・文芸研究部門〈優秀賞〉		33
全国高等学校文化連盟基本調査		38
第14回全国高等学校総合文化祭開催要綱		42
山口県高等学校文化連盟規約		43
山口県高等学校文化連盟昭和63年度決算書・平成元年度予算書		45
山口県高等学校文化連盟役員一覧表		46
全国高文連の歌		47
編集後記		48

ごあいさつ



山口県高等学校文化連盟

会 長 五十部 益 一

昭和58年夏、全国から8,200余名の高校生を山口県に迎え、全国高等学校総合文化祭を開催しましたところ、山口県の高校生が一丸となって成功させたあの感動は、いまだに記憶に新たなところであります。これを契機として昭和62年6月、防府市公会堂において、県内各高校の代表生徒の掲げる校旗のもとで、山口県高等学校文化連盟は産声をあげました。

連盟発足から3年、試行錯誤もありましたが、関係各位の御尽力、高校生諸君の熱意により、11部門別に6月から12月にわたって開催されております県高校総合文化祭では、すぐれた文化活動の成果を発表することができ、高校生をはじめ多くの県民のみなさんから激励、賞賛のこたばをいただいております。

昨年度熊本で開催の全国高等学校総合文化祭には本県高文連からは代表として8部門19校220名が、また、本年度の岡山大会には11部門21校277名という全国でも屈指の多勢の生徒諸君が参加し、堂々とその成果を発表し、山口県の意気を示してくれました。

また、各校巡回の6種の芸術鑑賞自主事業には、各校から予想以上の申し込みがあり、その調整に嬉しい悲鳴をあげている状況であります。これらの運営につきましては今後とも鋭意検討を加え、高校生諸君に喜ばれるよう努めて参る所存であります。

昭和63年春には吹奏楽部122名の生徒が韓国に親善訪問し交歓して参りました。本連盟としても、これを契機として来年度から各関係機関の御協力をたまわりながら、国際親善にも力を注いで参ることとしております。

さて、山口県高等学校文化連盟では、発足以来、年度末に各ホームルーム用の壁新聞「高文連会報」により、主だった事業を写真入りで報告してきたところでありますが、年を経るに従ってその記録も散逸するおそれもあり、今年から新たに機関誌「高文連」を刊行することにより保存に努めることとしました。今回その第1号を発行する運びとなりました。

本連盟もすでに基礎固めは終わりました。今後は関係各位の御尽力、御協力、また、高校生諸君の若さあふれる感性、熱意により、わが山口県高等学校文化連盟が、ますます発展することを切望するものであります。

山口県高等学校総合文化祭の報告と記録

器楽・管弦楽部門

理事 松永忠雄

(下関南高等学校)

平成元年度の第11回山口県高等学校総合文化祭開幕式典、および高文連音楽関係部門による各高校の発表・演奏は、6月17日・18日の両日、下関市民会館の大ホールにおいて行なわれました。器楽・管弦楽部門にはオーケストラ3校、ギター合奏2校、マンドリン、弦楽合奏それぞれ1校の参加があり、多数の参加があった吹奏楽部門(43校)に混じって一服の清涼剤ともいえる立派な演奏を披露して、大会を盛り上げました。

しかし、なんといっても、例年行なわれてい

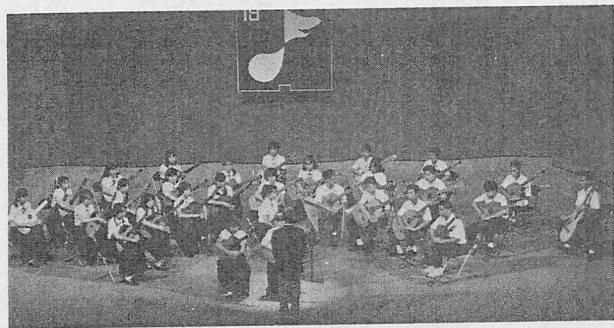
る開幕式典でのオーケストラとコーラスによる慶祝演奏(曲目“ハレルヤ”、“大地讃頌”)は圧巻で音響の良い下関市民会館大ホールに、高校生らしい、若くて力強いサウンドとなって響き渡りました。オーケストラ・ピットを使って、8校270名からなる混声合唱と5校90名で編成されたオーケストラによる合同演奏はスケールが大きく、大会当日の朝だけという短時間の合同練習にもかかわらず、三好五郎先生(下関工業高校)の指揮による演奏は、出演者は勿論のこと、聴衆にも深い感銘を与えたステージでした。



第11回山口県高等学校総合文化祭 開幕式典

さかのぼれば、昭和61年の夏、山口市で行なわれた高校総体の総合開会式での式典部門に、インターハイ史上初の画期的なオーケストラが登場しました。この時のオーケストラ編成が参考になり以後毎年、高校総体の開幕式典において短時間の合同練習しかできぬものの、なんとか合同演奏が出来るようになりました。高校生のみによるオーケストラ伴奏の「ハレルヤ」「大地讃頌」は全国的にも珍しく、素晴らしいことではないかと思います。

器楽・管弦楽部門ではこういった大編成によるものだけではありません。微妙で繊細な音が要求されるギター、マンドリンなどの撓弦楽器



ギター合奏 熊毛南高等学校

の分野でも地道ながら着実な活動が続けられ、なかには全国レベルの学校もあります。

全国高等学校総合文化祭では、一昨年の熊本大会において下関南高校が100名という大編成のオーケストラで出演し、ラヴェルの“ボレロ”の演奏に対して「高校生の演奏する奇跡の“ボレロ”」という高い賛辞を受けました。また、昨年は岡山大会において、熊毛南高校がギター合奏で出演し、高いレベルの演奏でたいへんな好評を得ました。今年の山梨大会には下関第一高校がオーケストラで参加の予定です。山口県の代表として頑張ってくれることでしょう。

さて、昭和57年以来、県下各高等学校の器楽、管弦楽それにギター、マンドリンなどの撓弦楽器の合奏を主体とする部活動の発表の場として行なわれていた、山口県高等学校教育研究会音楽

部会主催による「弦楽スプリングコンサート」も、今回の第9回大会（3月27日 柳井市サンビームやない）から高文連の器楽・管弦楽部門の主催による「器楽・管弦楽スプリングコンサート」と改称して開催されます。管弦楽、ギター、マンドリン合奏のほか、リコーダー合奏もふくめて多くの高校の参加が望まれています。

このように活発な活動を行なっている部門ですが、管弦楽は技術や編成、あるいはその普及などを見るに、一部を除いて今一步といった現状があります。また、ギター、マンドリンなども一般的には愛好されて普及されているように思われますが、本格的な合奏となると決して十



管弦楽 下関南高等学校

分とはいえません。

弦楽器は「とつつきが難しい」「なかなか音にならない」と言われますが、芸術性の追求は申すまでもなく、合奏の喜びや楽しさを味わうには最高の楽器です。ややもすると考えや行動が安易な方向へ流れやすい昨今の高校生が、あの弦独特の艶やかで柔らかい音色に魅力を持ち、困難で根気の必要なこの楽器に取り組んでくれることを望んでいます。

偉大な作曲家達の作品に直に触れ、音楽の喜びと接することのできる分野は、やはり管弦楽の分野でしょう。聴くだけでなく、名曲演奏に参加することで音楽のよさを、さらに知ってもらいたいです。高校生による管弦楽の一層の飛躍を願います。

合 唱 部 門

理 事 中 尾 綾 子

(宇部中央高等学校)

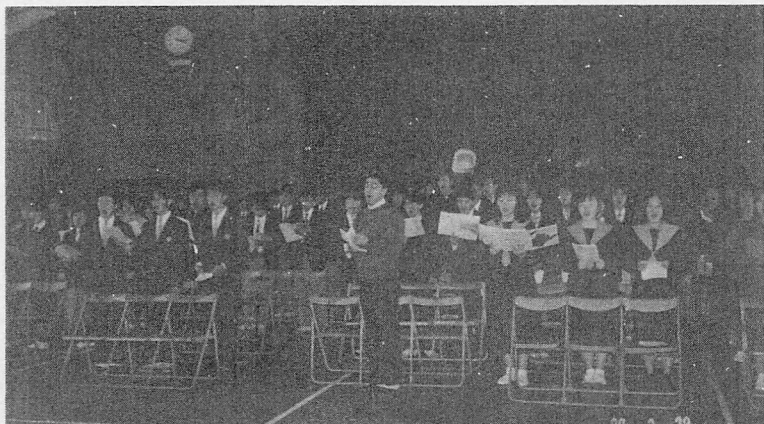
平成の最初の県総文は、6月17日の開幕式典を皮切りに6月17日、18日に下関市で盛大に開催された。開幕式典は恒例のスケジュールで行われたが、合唱部門は、器楽・管弦楽部門と合同で、大地讃頌とハレルヤの大合唱をした。この合唱には、熊毛北高校29人、徳山高校13人、防府高校42人、野田学園高校40人、萩高校50人、宇部高校25人、宇部中央高校31人、香川高校32人、田部高校8人の9校から270人が出演した。人数の多い学校もあるが「単独では合唱活動がやりにくい、多人数でうたわせてやりたい」といった顧問の熱意で生徒を参加させて下さった学校もあり、本当に嬉しいことであった。合同練習をしてまとまった時間は当日のみでありそれまでに各校別々に練習をして集まったのであるが、そこはヤングパワーですぐうちとけてすばらしい合唱になり歌った生徒はもちろんのことオーケストラの生徒も、客席で聞いていた生徒もすばらしい感動を味わったことと思う。反省点も多くあるが一番気になったことは、270人もの合唱団と80人近いオーケストラの団員とで熱気がムンムンして、梅雨のむし暑さも手伝って、気分の悪くなった生徒が多くついに演奏中にも2～3人の生徒がたおれてしまったことである。来年度はどのような形式で行なわれるか未定であるが、やはりスケジュールのたて方を生徒の健康管理の面からも考慮してやらなくては行けないと反省した。開幕式典にひきついて音楽部門の発表会があったが、合唱部門も9校、340人の生徒が出演した。コンクールと違って順位をつけたりしなくてもよいこの発表会

には、のびのびとした演奏が多く、演奏曲もバラエティに富み楽しく聞けたように思う。しかし器楽管弦楽部門の7校、吹奏楽部門の43校の参加にくらべて、合唱部門の9校というのは少々さびしい気がしないでもない。これにはいろいろな原因も考えられるが、来年度はもっと多くの学校の生徒が参加できることを念願している。

8月に開催された全総文（岡山大会）には、香川高校が代表として参加した。全国の高校生との交流は合唱団にとってとても刺激になり部の活動もなおいっそう活発になったそうで、大変嬉しいことであり、意義のあることだと思う。合唱を通じて得た心のふれ合いと感動は若い高校生の胸にいつまでも残るであろう。そして彼等が大人になって社会人となった時、有形無形の何かを残してくれることと思う。

合唱部門の研修会・交流会も昨年度末に第1回を野田学園で開催したが、本年度も3月29日に宇部中央高校で行う予定である。部活をしていくうちに生じた悩みや疑問をざっくばらんに話し合ったり、音楽上のテクニックの練習をしたりして皆で横のつながりをもって心の交流をはかることができればいいなと思う。

合唱の底辺拡大とか、国際交流のことなど問題や課題も多いが、これからも、なおいっそうこの部会が発展することを念願している。



3月29日 宇部中央高校に於いて
山口県高校合唱団合同練習会



第13回全国高等学校総合文化祭合唱部門 香川高校



吹奏楽部門

理事 重 広 昭 雄

(防府高等学校)

平成元年度の山口県高等学校総合文化祭音楽部門は、下関南高等学校を主管校として、下関地区の先生方のお世話で、6月17日(土)～18日(日)と2日間にわたり下関市民会館で盛大に開催されました。主管校の先生方をはじめ地区で御心配下さいました実行委員の方々に心からお礼申し上げます。

この大会は、音楽部門の顧問教師間にとっては、他校の演奏を生徒と一緒に鑑賞して自分達の活動に生かす勉強会も兼ねていますので、鑑賞者のために合唱・器楽・管弦楽・吹奏楽・マーチングバトントワラーズ等演奏形態を交互に出演させて、プログラムにバラエティーをもたせる方向で計画していましたが、開幕式典との関係で初日を合唱・器楽中心、2日目を吹奏楽マーチングバトントワラーズと最近は実施しています。2日目の参加団体が多くプログラム編成に問題を抱えていますが、関係者の英知を結集して漸次解決していきたいと思います。

平成2年度の山口県高等学校総合文化祭音楽部門は、岩国高等学校を主管校として岩国地区の先生方のお世話で、6月17日(土)～18日(日)と2日間、岩国市民会館で開催する予定です。

全国高等学校総合文化祭(岡山県)では、61総体総合開会式のために作曲された「行進曲山口」をプログラムに入れていただき防府西高等学校吹奏楽部がすばらしい演奏を披露してくれました。平成2年度の全国高等学校総合文化祭(山梨県)では下関商業高等学校吹奏楽部が参加いたします。山口県代表のバンドとして立派な演奏を期待いたします。

さて、ご承知の通り山口県高等学校文化連盟は先輩諸氏の今までの活動と第7回全国高等学校総合文化祭や昭和61年度全国高等学校総合体育大会の山口県開催で、暑さをもつともせず若さ溢れる高校の二大イベントを繰り広げた高校生諸君の活動が評価され、昭和62年6月20日防府市公会堂で創設されたものです。その目的は、生徒の創造活動の向上充実を図るとともに文化活動の健全な発展と芸術文化振興に資するためであります。近年はさらに創造的英知と豊かな国際的視野をもった人材の育成のための国際文化交流についても、広く高校教育に望まれています。生徒のためにその精神を生かした運営に今後一層努めたいと思います。

最後に、吹奏楽部会の諸行事を開催するに当たり、種々御指導、御支援を賜りました山口県教育委員会をはじめ関係各位に、心からお礼を申し上げ、1990年代の幕開けにふさわしい実り大きい平成2年度の飛躍を期待して、吹奏楽部会の報告といたします。

第13回全国高等学校総合文化祭

—吹奏楽部門— に参加して

防府西高等学校教諭 矢田部一俊

1989年8月2日、2台のバスに70名の部員と3名の顧問教師、それに全ての楽器をのせていざ岡山へ。今にも泣き出しそうな天気だがみんな張りきっている。何しろ山口県代表というこの誇り高き名誉はたいした自信もないわれわれにとって心の底にズッシリと重く、それは輝ける宝石以上の価値があるからだ。



第13回全国高等学校総合文化祭 防府西高校

6～7時間の道中広島あたりからひどい雨になり、倉敷に到着した時はバスから降りられないような雷雨で、過去15年の遠征において初めての苦い体験となる。宿はといえば男子がビジネスホテル、女子が空きマンション、食堂も別棟という最後まで70余名一同が会する場所もない常に別行動をとらねばならない味気ないものだったが、この2日間に彼らは多くを学び、格段の成長を遂げるのだ。

旅の疲れもよそに18：00からの前夜祭に全員で向かった。会場はすでに満員の盛況ぶり、いろんなイベントを楽しんだり、全国から集まった高校生同志で交流を深め、最後の阪急少年音楽隊の目を見張るようなドリル演奏に心を打たれたようだった。翌日、天気は見事に晴れ、二番目のプログラムなので早朝から行動を起こし、必ずしも満足のいく出来ではなかったが、責任は果たした。大会の運営に携われた先生方や生徒たちの働きぶりをみながら、数年前山口県で引き受けた時の苦労を思い出しながら皆さんに感謝するものだった。

さて演奏終了後、記念撮影も忘れ楽器の後始

末をしてやっと一息つくと疲れがどっと出てきた。今回の目的のもう一つに、他校の演奏をしっかりと聴いて勉強しようという事を挙げていたが、私の指示を無視し、市民館周辺をこっそりとペアで散歩していた姿を若干見かける。これが現代高校生気質なのか？ いささか淋しい気もしたが、目当ての高校は聴いていた。全日本のトップレベルの演奏を目のあたりにして、生徒の一人がもらした。「僕らあ、まるでありんこみたいなもんじゃ」と。それもそのはず誰が聴いても凄いというならせるほどの演奏なのだから……私の永く模索していたブラス、それよりも桁違いのブラスの魅力にふれ全身に熱いものがほとばしり、涙したのは私だけではない。会場にいる超満員の聴衆全てがこの若者たちの創り上げた芸術に感銘し興奮し、ステージを含めたホール全体が驚嘆すべき世界と化す。「これだ、これだ!! ずっと、ずっと求め続けていたのは……」と一人納得し、強い決意を結ぶ。『やるぞ、やってみよう……できないかも知れないが、やってみるぞ!』私は幸せだった。なぜってこんな気持ちになったのは40年の人生の中で初めて

じゃないかな。生徒も幸せだ。つまりそれは、一位とか金賞とか県代表とかいうちっぽけに思える名誉等ではなく、もっともっと大きい大きい素晴らしい価値あるものを見つけたからだ。

最後に今回の総文に参加した思い出に創った文集より一人の生徒が綴った文章の一部を引用し、私の稚拙なレポートを終えたい。

原文のまま、

『この演奏会を聴けて幸せだと思った。そしてどうせやるならここまでやりたいと思った。こんな聴く人に感激を与えるような演奏をしたいとも思った。

やっぱり音楽ってすごい。音楽ってどんな人でも、すべての人に平等な感動を与えるすごい力をもっているなあとあらためて考えさせられた』
1989. 9. 9

マーチングバンド・バトントワーリング部門

理 事 花 村 慈 照
(宇部女子高等学校)

出場校と演技曲名（出場順）

- (1) 早鞆高校「フックト・オン・マーチ」
- (2) 宇部女子高校「センチメンタル・カンガルー」
- (3) 三田尻女子高校「ともだち」

第7回全国高等学校総合文化祭山口県大会（昭和58年8月）に県下から、早鞆高校、サビエル高校、宇部女子高校、三田尻女子高校の4校が出場することになり、それをきっかけに、山口県のマーチングバトントワーリングの発展のために、その年の山口県高等学校総合文化祭の音楽部門に出演することになりました。まだ歴史の新しい部会ではありますが、その後、サビエル高校が辞退され、現在は早鞆高校、宇部女子高校、三田尻女子高校の三校が毎年参加しております。三校がそろって同じ会場で演技をすることは、この音楽祭以外にはまったくなく、日頃は地元の行事や学校行事等に参加しております。この大会に出場するため各校とも選曲に、振付けに大変な努力をされているようで、今後ともこの大会を大切にしていきたいものだと思います。

（下関大会に参加しての感想）

- (1) 毎年、大会初日の開幕式典行事のあと、地元高校生による、合同バンドの演奏によってバトンの演技が行なわれてきましたが、この大会の場合は、地元の事情によって演奏ができなかったが、今後はぜひ地元の高校生による演奏をおねがしたい。
- (2) 式典行事のあとの出演のために客席がほとんど空席であり出演する生徒達にとってさみしい思いがしました。
- (3) 今回は、リハーサル時間が各校とも数分しかなく、位置の確認も出来なく、十分な演技ができませんでした。少なくとも、2～3曲練習が出来れば良かったと思いました。

各校の反省として

早鞆高校 顧問 磯部 瑤子

山口県高等学校音楽会は年一度の他校との交流、研鑽の場としてこの発表会は、私共にとって大きな目標の行事となりました。今年は地元下関での開催というプレッシャーを利用して、

いい作品創りに努めようとしたのですが、結果は少しも向上が見られないままに終わってしまいむなしさを感じてしまいました。

バトンを総合的に反省しますと、

- (1) バトンのテクニック
- (2) 基本的な動ける身体づくり
- (3) 選曲
- (4) 作品構成

この4つの柱をもって根本的に研究し、練習して、もっとバトン部会のレベルアップをしなければいけないと思いました。選曲については、

開催地の吹奏楽部の合同演奏をお願いして、バトン演技をする慣習があったものですから、今年はその連絡、決定が遅くて戸惑いがありました。次にプログラムの時間帯についてですが、観客のいない谷間にバトン演技が組まれていて生徒にとっては淋しい張り合いのない気分です。今後の工夫をお願いしたいと思います。最後に現在バトンが認められている条件は若さあふれる鍛えられた演技をユニホーム等で高校生らしい品位のある美しいステージをつくりあげることと思います。



早鞆高校

「思い出の連合音楽祭」

三田尻女子高校 バトン部
松原美奈子

私が三年に進級し、新一年生がぞくぞく我がバトン部に入部し始めてまもなく、毎年6月中旬に開催される「山口県高等学校連合音楽祭」の話が顧問の永田先生からもかけられました。先輩方が卒業され、私達の力だけでやらなくてはならない、はじめての大きな行事だったので不安でしたが、自分達の力を試したいと思いま

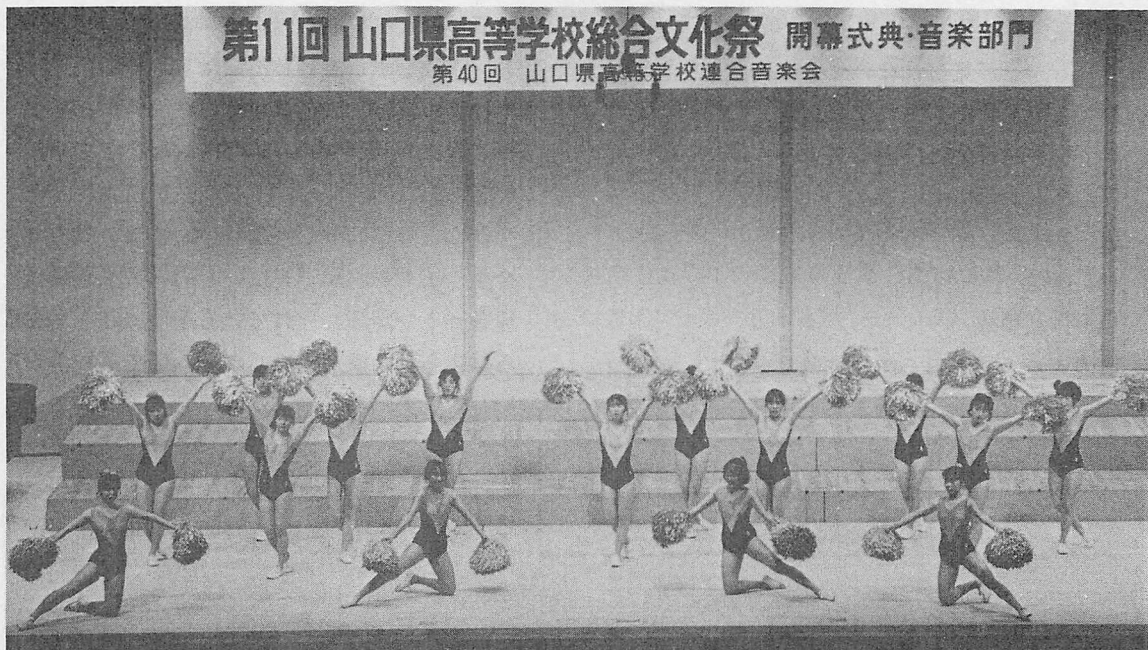
した。

私達は練習を始めた。まず選曲、高校生らしいさわやかに、ということが私達の選曲のポイントです。全員で捜しあてた曲は「中村あゆみ」の「ともだち」でした。

部員一人ひとりが自覚を持ち毎日の練習にも熱が入りました。当日、ピンクにグレーのカラフルな衣裳を身に付け、元気一杯に演技しました。そして他校の演技も大変勉強になりました。私はこの音楽会を一生忘れないでしょう。

第11回 山口県高等学校総合文化祭 開幕式典・音楽部門

第40回 山口県高等学校連合音楽会



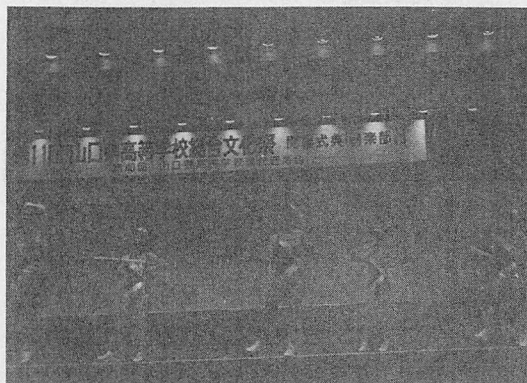
三田尻女子高校

「県高校総文祭に参加して」

宇部女子高校 バトン部

山崎 乃子

毎年6月中旬に開催される山口県連合音楽祭は今年は下関市民館大ホールで行なわれました。私はこの大会に参加して、強く感じたことは、



宇部女子高校

他校のバトン部の皆さんと交流ができ情報の交換が出来ること、演技が見られることです。そのため大変緊張しました。選曲につきましても、高校生らしい、はつらつとした曲であり皆さんがよく知っておられるもので、テンポの早いも

のの中から選びました。部員一同が力を合わせて、何度も何度もテープをまわし、やっと6月の初めに出来あがり、そして大会前日まで、バトン、ポンポンのおどりこみを行ないました。

大会当日はとっても不安でした。新入生にとってははじめての舞台であり、またバトンを落さないだろうかという気持ちでいっぱいでした。4分間の演技が終り観客の拍手を聞いてやっと終わったのだな一と思い、皆んなの協力によって出来たことに胸が熱くなりました。この思い出は決して忘れることはないでしょう。



宇部女子高校

日本音楽部門

理事 中野靖子

(中村女子高等学校)

日本音楽部門が開催されて9回目、平成元年度の県高校総文祭日本音楽部門の発表大会は、6月25日、光市の聖光高等学校主管のもと、例年のごとく吟詠剣詩舞部門と合同で開催された。

今年は18校120名の参加を得、毎年参加校出演者が増えている傾向にあり喜ばしく思っている。又昨年から県立聾学校の太鼓合奏も出演し、陶ヶ岳太鼓の演奏で観客を魅了した。

今年度の特徴は、暗譜で演奏する学校が多くなり、日々の努力の様子に心うたれた。

以下演奏発表の一部を紹介しておく。



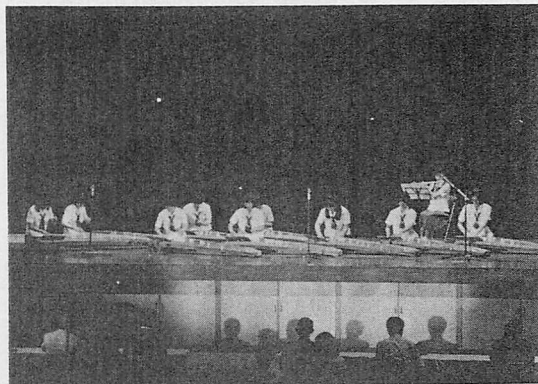
(柳井高校による合奏 つむぎ唄)

つむぎ唄

ピアノ曲「つむぎ唄」にヒントを得て作られた箏・尺八・ピアノ合奏曲、澄み切った青空、そよ吹く風、どこからか糸つむぎの音が聞こえる。

宍道湖の夕べ

出雲路を訪ね、その美しさに魅せられた印象を述べています。のどかな古典美的、宍道湖も夕刻には湖畔に街の灯がうつらなり、湖水がきらめき、あらたな趣を添えている。



(聖光高校による合奏 宍道湖の夕べ)

タやけ小やけ変奏曲

小さい頃への郷愁を誘うような懐かしい曲、誰もが口ぐさむ曲、美しい夕焼け空、仲よしだったお友達等子供の頃を思い出させる曲。



(防府高校によるタやけ小やけ変奏曲)

清遊

見苦しい世の中を忘れ、人情のしがらみから一時抜け出し、優雅に、のどかに、この調べに身をおきたくなるような曲。自然の中に自分を置き、月光と、琴の音だけが友達という心境・空間を演奏。



(下関女子短大付属高校による合奏 清遊)

以上が県総文の一部である。

昭和63年度第12回全国高等学校総合文化祭は、森と水の都、熊本県で「熊本で未来を放とう文化の矢」のテーマの下に開催され、我が県の代表として、中村女子高等学校が「月の宴」を立派に演奏してくれた。

平成元年度は、岡山県で開催され、本県代表の聖光高等学校が、代表校として参加、これも

みごとな演奏であった。今年8月山梨で開催される全国大会には柳井高校が参加する予定である。

日本音楽部門は文化活動の中でも、あまり派手さはなく、県内高等学校の中でも部活動で実施されている学校は僅かであり、正課クラブで実施しているようである。部人数も少人数と問題も多い。そうした中で、顧問先生の努力により、近年参加校も増え、盛んになりつつある傾向に感謝したい。

古く中国では、李・杜・韓・白といった人達は琴を弾じ、生活を送った。我が国でも上代に伝えられ、今日に至っているものの、現代社会に適応しにくいのか、盛んでないのは、とても残念なことである。高校生には、日本の伝統に今一度ふり返ってもらい、演奏できる喜びを知り、普及発展させてくれることを切に願っている。

最後に、学校一丸となり協力して下さった聖光高等学校に敬意を表したい。



(熊本で行われた全国大会で演奏する
中村女子高校 月の宴) - 12 -

吟詠・剣詩舞部門

理事 辛嶋茂樹

(下関工業高等学校)

平成元年度の県高校総文祭の吟詠剣詩舞部門の発表大会は、開幕式典、器楽・管弦楽部門の大会に引き続いて、6月25日 光市の聖光高等学校講堂において開催された。

この部門は参加校が少ないため、例年のように日本音楽部門と合同で開催された。

平成元年は、高杉 晋作生誕150年の記念すべき年に当たっているため、萩工業高校・聖光高校・下関女子短期大学付属高校・下関工業高校の4校15名が合同で「構成吟 高杉晋作」を発表した。



(全員の合吟 高杉東行先生像を拝す)



(下関女子短大付属高校と萩工高校の書道吟)

その内容は高杉晋作の波乱に満ちた短い生涯をスライドとナレーションで紹介しながら、随所に吟詠・詩舞・書道をはさんだもので、上演時間は約20分であった。

ナレーターは聖光高校と下関女子短期大学付属高校が交替でつとめ、箏の伴奏は聖光高校が受け持った。吟詠する詩文は最後の一つを除きあとはすべて高杉晋作の自作のものをういた。



(下関工高校の居合吟)

次に吟題と担当を簡単に紹介する。

書道吟「壇の浦、前田両砲台を過ぐ 感有り」

吟 ・下関女子短期大学付属高校

書道 ・萩工業高校

合吟「獄中の作」

吟 ・聖光高校

居合吟「焦心録後に題す」

吟 ・下関工業高校

居合 ・下関工業高校

合吟「奇兵隊」

吟 ・聖光高校

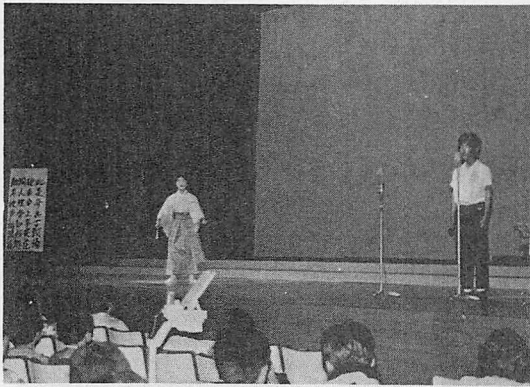
詩舞「桜山七絶」

吟 ・萩工業高校

舞 ・萩工業高校
 独 吟「辞世」
 吟 ・聖光高校
 合 吟「高杉 東行先生像を拝す」
 吟 ・出演者全員

構成吟の他に聖光高校が、詩舞「越中覽古」と書道吟「江南の春」を演じた。

会場引受けの聖光高校は、職員・生徒一丸となって前日の準備、当日の運営、そして大会後の後片付けと見事な活動ぶりであった。紙上をお借りして厚くお礼申し上げる。



(萩工高校の詩舞)

「構成吟 高杉晋作」は平成元年8月岡山市で開催された全国高等学校総合文化祭・吟詠剣詩舞部門大会でも発表し、観客に多大の感銘を与えた。

ちなみに、昭和63年の全国大会（熊本市）でも同じ4校が合同で参加し「構成吟 吉田松陰」を発表している。

わが郷土山口県は、古くから歴史の舞台に登場し、幾多の史跡を有し、多くの偉人を輩出せしめた誇るべき土地柄である。全国大会出場の機会をとらえて、吟詠を通して郷土の歴史を紹介することは、意義深いものであると考えている。

県内高等学校のうち正課クラブ又は部活動で吟詠を行なっている学校は僅か10校ほどであるが、社会人の詠吟人口は日本全体で約300万人と推定されている。日本の伝統芸能、日本人の心のふるさとともいわれている吟詠の良さが、高校生にもっと知られ、普及発展することを願って止まない。



(聖光高校の合吟)

演劇部門

舞台は生きていた…！

理事 西村 司

(厚狭高等学校)

県大会を終えて

高校の文化活動の中で、演劇は特別な意味をもっている。

演劇は、一人や二人の力ではなく、美術・装置・衣装・照明・音響・演出・演技と、それぞれ個性の異なる生徒が集まって、相手の個性を尊重しながら、自己を表現していく。切磋琢磨しながら、自立してゆく、人間教育が演劇活動の中にあり、大きな教育的な意味がある。

今年度の大会は、宇部市文化会館で開催した。

この大会を目指して、8月20日の宇部地区を皮切りに、山防・下関・周防地区と炎天下の青春譜を繰り広げた。

各地区大会は、舞台が弾もうと、沈もうと、表に裏に、清楚に走りまわる姿があった。その姿に高校演劇の座標軸があった。

わたしが観た限りでは、上演校30校の舞台はいずれも、それなりに充実していた。

むろん、探り出せば、問題点はいくらかもあるがなによりも、確かな手応えを感じた。ウソのない演技に、気持ちのいい衝撃を受けた。

また観客が実にいい。白紙の状態で舞台にキチット対している。時間を共有することについての全身的な喜びがあった。

今年度の大会に少しふれたい、中国代表に選ばれた2校にふれてみたい。

山口県鴻城高校の「赤ずきん・ザ・紙芝居」はグリムの童話をふくらませて楽しい舞台をつくり上げていた。色どり鮮やかな童話的雰囲気、に満ちた舞台であった。

深刻なものが多い高校演劇で、楽しい明るい

ものを観たという感じである。演出と演技がよかった。演技の切れといい、セリフの通る声といい、豊かな芝居を作り上げていた。女神を演じた女性徒がよかった。



大会に出場した鴻城高校の演劇部員

同じく、県立岩陽高校の「卵の中の白雪姫」には、独特の笑いと味があった。

舞台も丁寧に作ってあるし、演技者も素朴に演じていた。あがりの祭の場面に、もう一つ先へ発展させる工夫が欲しかったが、センスのいい、安定感のある舞台であった。

中国大会でも、山口県はレベルの高い方であった。

全国大会に参加して

毎年のことではあるが、大会に参加する度にやはり、その都度、新しい感慨をもつ。

昭和56年夏、第5回全国高校総合文化祭が秋田県で開催された。それに参加して「よーしやるぞ」と誓ったりしたのがいけなかった。それが病みつきとなり、素直に・素朴に・且つ大胆

に県組織を結成し、実践してきたのも、高校演劇に関して「共通」の理解をもった「人」を得たからであろう。

社会的責任をもった、生きている集団として、上昇・動揺・安定・新たな展開と確実に歩みたいものだと思う。

文化活動の母体、高文連も発足し、高演協も力量がつき「軌道」にのってきた。「慣れ」に流されることを「警戒」しなければならないと思う。

今年の大会は、倉敷市の市民会館で盛大に開催された。35回目の記念大会ということで特別に審査員・講師として劇作家、別役実氏の「演劇の知恵」と題する講演が組み込まれていた。

2,000人ほど収容できる大ホールが連日超満員でブロック代表の熱意に、舞台は生きていた。全体的にみると稽古の積まれた素晴らしい舞台の連続であった。レベルの高い大会であった。

中国地区代表の県立岩陽高校の「赤ずきんちゃんの森の狼たちのクリスマス」は、厭味の無い、爽やかな感動があった。形でなく、内側の

ものを押さえて演じていると感じさせるものがあったら「今」でなければ表現できない舞台になったと思う。好感の持てる舞台であった。

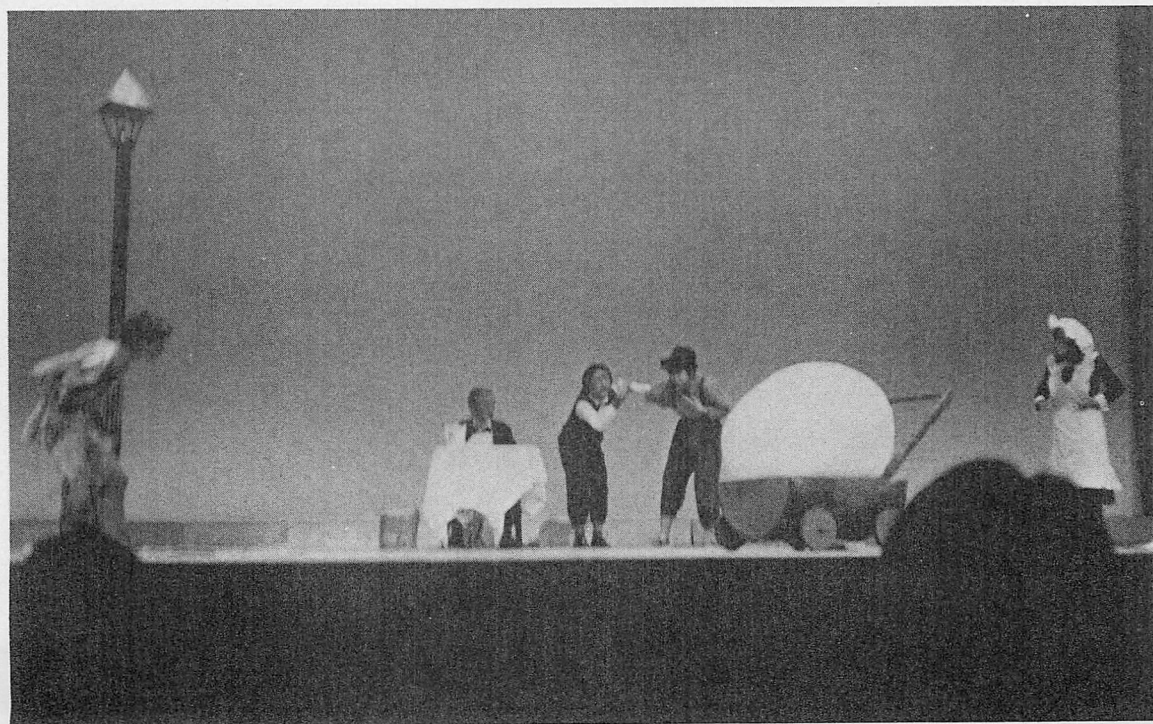
創作脚本賞創設

ここ数年の特色は、創作劇の多いことである。創作活動が充実してきた。創作劇が、在来の演劇活動を打破して、新しい真の創造のエネルギーになり得るということで創設された。

伊藤弘子(山口中央高校2年)「機械じかけの人形」が受賞作品に決定した。

伊藤さんの作品は、いくらカナマのままの素材を舞台に持ち込んだきらいがないでもないが、極論すれば、スケッチであってもドラマではない感がないではないが、形象化に問題を残していたが、注目すべき作品であった。

演劇体験の少ない高校生が、高校生でなければ書けない作品を創造していた。置き換え不能の魅力があった。新しい芽が育ち始めたといっている。積極的に新しい試みへの挑戦を期待したい。



囲 碁 部 門

理 事 黒 瀬 孝 泰

(宇部鴻城高等学校)

山口県高文連囲碁部門の第1回大会が、平成元年10月29日(日)に山口高校で、全国大会の予選を兼ねて開催されました。

一昨年、全国高文連に囲碁部会が設置され、続いて昨年山口県高文連にも囲碁部門が誕生して、高校囲碁ファン待望の山口県大会が実現しました。

全県から73名の選手が参加して終日にわたる盤上白熱戦の結果、優勝した次の4名が全国大会への山口県代表に決まりました。

男子個人戦優勝

A組：山本 秀樹六段格(宇部高校2年)

B組：田中 一弥六段格(下関西高校1年)

女子個人戦優勝

A組：松岡 明子12級(小野田高校2年)

B組：松本留美子14級(小野田高校2年)

尚、第3位入賞者と団体戦の成績及び敢闘賞受賞者は次の通りでした。

男子個人戦第3位

山下 秀登三段(徳山高校2年)

阿部 幸男1級(宇部鴻城高校3年)

女子個人戦第3位

山本 千晶14級(小野田高校2年)

土井 香15級(小野田高校2年)

男子団体戦優勝：萩高校(福田敦宏3級・石川裕二6級・児玉靖幸9級)

準優勝：山口高校(藤本高志2級・原田忠幸3級・今倉貴明4級)

第3位：小野田工業高校(柏村繁雄14級・田村繁昌15級・中川務16級)

宇部鴻城高校(阿部幸男1級・時広幸司6級・原田豊彰7級)

女子団体戦優勝：小野田高校(松岡明子12級
上原幸子14級・松本留美子14級)

準優勝：厚狭高校(池田真紀17級・空河内
康子17級・河村美由紀17級)

敢闘賞は4戦全勝の次の6名が受賞しました。

藤本高志2級(山口高校2年)

石川裕二6級(萩高校1年)

宮原 徹10級(山口高校2年)

松本孝憲13級(宇部鴻城高校3年)

山根大樹13級(山口農業高校2年)

藤田貴子16級(小野田高校1年)



盛会であった山口県高校囲碁大会

大会は段級位認定大会を先行し、その成績を勘案して全国大会代表選抜戦が平行して行われ、1段級差1子の手合割制で変則リーグ4回戦の結果2勝以上の成績の選手48名に認定状が授与されました。

団体戦は各校チームの個人戦の成績の合計によって決められました。

全国大会代表選抜戦は認定大会1～3回戦の成績と棋力を勘案して代表選抜委員が協議のうえで、男女各4名を選抜しオール互先対局で、A組は互先代表とし、B組はハンディー戦代表

となって平成2年1月21日(日)に名古屋市の日本棋院中部総本部で開催された全国大会へ出場しました。その全国大会の成績は次の通りでした。

山本秀樹選手(A組)は、第1回戦で昨年夏高校囲碁選手権大会での全国優勝者(静岡県代表)木下暢暁六段(沼津東高2年)と対局して惜敗、続いて福島・秋田・滋賀県代表と対戦して結局2勝2敗。

田中一弥選手(B組)は、秋田・長野両県代表に勝ち、青森・石川両県代表に惜敗して2勝2敗。

松岡明子選手(A組)は、秋田・熊本・和歌山・愛知の各県代表と対局して何れも惜敗。

松本留美子選手(B組)は、愛知県代表の筒井美佐1級(旭野高1年)に勝ち、栃木・千葉熊本県代表に何れも惜敗して1勝3敗。

全国大会はA組・B組共にスイス方式による対局であり、クジ運にもいくぶん左右された模様でしたが、山口県代表選手は全員よく健闘しました。

第1回山口県大会開催に際して、実質的には山口県高校教職員囲碁連盟(阿部昭典会長・防府西高校長、会員数485名)がその運営を担当し、大会準備会議(県高文連囲碁部会)を6回(平成元年5/27, 6/24, 7/15, 8/8, 8/22, 10/21)開催して準備が進められましたが、山口高校に事務局を置き、前記囲碁連盟の理事の先生方(33名)全員が大会実行委員を担当して順調に開催することができました。

大会用に作成されたプログラムは18頁から成り、山口県高文連会長の挨拶文に始まり、開催要項・大会進行(時間割)・開会式次第・閉会式次第・実行委員会(大会役員名簿)・出場者名簿(戦跡記録表)・成績記録簿・対局記録表・記録用棋譜等々で編成構成されたもので、参加者には良き記念になるものでした。そこでプログラム冊子冒頭の会長挨拶文を転記載して記録の1つとしておきます。

『 　　ごあいさつ

山口県高等学校文化連盟会長 五十部益一
(山口県立山口中央高等学校長)

平成元年度山口県高等学校総合文化祭の一環として、囲碁部門の第1回大会がここ山口市の県立山口高等学校で、はじめて開催されるに至りましたことは、まことに喜ばしいことであります。

山口県高等学校文化連盟は、今年で、3年目を迎え高校生諸君の情熱と関係者各位の御協力により、10の部門で、それぞれ順調に成果をあげてまいりました。本年度からは新しく囲碁部門が加わり、県総文、全総文祭に向けて高校生の交流の輪を一層広げてくれるものと信じております。

さて、囲碁はその昔、中国で生まれ奈良時代前に我が国にもたらされ、現在国内の囲碁人口は1千万人とも言われる程に普及しております。19路の盤上、白と黒の石を置いていくという、単純なゲームではありますが、その深奥は精神力、集中力、深求心のぶつかり合いだと聞いております。どうか本日の大会において、高校生らしく若さを発揮し所期の目的を達して下さるよう祈念しております。

終りに、大会開催にあたり、御尽力を賜りました関係各位に改めて深く謝意を表しましてご挨拶といたします。』

大会当日は10時10分から16時10分まで出場者全員が相手を変えて4局対局し熱戦を展開しましたが、その前後の開会式と閉会式の次第も明記して記録とします。

開会式次第

1. 開会のことば…実行副委員長(山口県立大津高校教頭) 栗田稔幸
2. あいさつ…山口県高文連会長 五十部益一
実行委員長(山口県高文連囲碁部門会長) 西村 昭正
会場校校長(山口県立山口高校

- 長) 井上 洋
3. 来賓祝辞…山口県教委 教育長 高山 治
4. 対局上の注意……………(審判)
5. 選手宣誓…美祢工業高校主将 河野 肇

閉会式次第

1. 成績発表・賞状授与
2. 認定状授与
3. あいさつ…実行委員長 (宇部鴻城高校長)
西村 昭正
4. 閉会のことば…実行副委員長 (山口県立下
松工業高校教頭) 岡藤 泰治

26年前から始まった高校囲碁の全国大会が発展して、14年前から全国高校囲碁連盟主催の全国大会となり、併せて14年前から各県大会が開催されてきました。更に昨年からは、高文連囲碁部会の全国大会と県大会が加わって、囲碁愛好生の参加できる場が増えたわけであります。

室内健全競技として囲碁の意義がより理解されてきたことは同慶の極みであり、正課や課外の囲碁クラブで囲碁を愛好している全国の高校生が、文化活動の一環としての囲碁を通して考えることのよき習性を身につけることにより、文化創造の担い手ともなることを期待します。

美術・工芸部門

理 事 岸 勤
(宇部商業高等学校)

展示関係の三部門が合同で開催する「県高校総合文化祭美術・工芸、書道、写真部門」が、本年度は12月1・2・3日の3日間、萩市民館および隣接するサンライフ萩を会場にして行われました。

発足以来山陽側の各都市に片寄っていた開催地を、是非山陰側へ、という希望を受け入れられて、萩工業高校を主管校とし、奈古・萩・長門・美祢地区の各高校が協力して運営開催されました。

近隣というには距離のあり過ぎるお互いが、その不便を克服して力を合わせられ、大変なご努力をいただきました。担当された各高校の皆様にご心からお礼を申し上げます。

さて、12月とはいえ温暖な気候に恵まれた3日間は、地元の高中生や一般の観覧者も結構あり、特に最終日は県下各地の高校生も集ってに

ぎわいました。日程を追って簡単に記すと次のとおりです。

12月1日(金)午前11時。すっかり準備の整った萩市民館のロビーでオープニングセレモニーが行われました。来賓として萩市教育長都築泰氏をお迎えし、文化連盟会長、県文化課長、主管校および担当校校長列席のもとに、地区高校生と関係教員約150名が参加しました。そして続く代表者7名のテープカットにより、入場が開始されました。

市民館の小ホールは書道の展示場、その2階にあたる第三会議室と1階の講義室が写真の展示場となりました。美術・工芸はサンライフ萩の体育室および2階の職業技能講習室とラウンジの一部を使用して展示されました。

12月2日(土)は9:00~16:00公開展示。

12月3日(日)最後の日には9:00開展に続き13

：00より講評会、14：00より市民館結婚式場を使用して萩焼作家野坂康起氏の講演会が催されました。

「やき物との出会い」と題された同氏の講演は、工芸作家として国内外で活躍中の御自身がたどられたさまざまな経験を、すべて出会いであったとの感慨をこめながら語られ、印象的でした。



講演会の風景

次に美術・工芸部門について感想等を述べておきたいと思います。

サンライフ萩は市民に開かれた社会教育施設で、大変明るくきれいな建物でした。パネルで仕切って絵画作品を展示した体育室は、理想的な雰囲気であったと思います。奥まったところの中央に講演会講師野坂康起氏の大花器が展示され、関心を集めました。

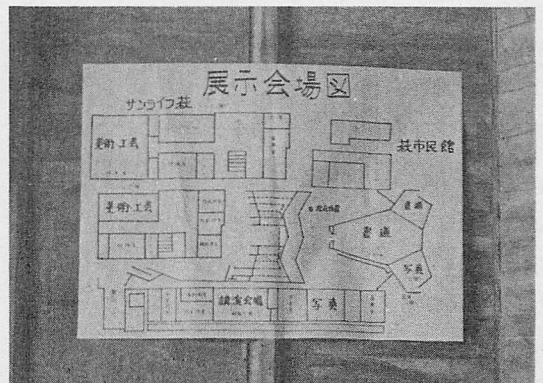
2階の職業技能講習室も周囲と中央にパネルを設置して、主にデザイン作品が展示されましたが、こちらも手頃な広さによくおさまり、落ち着いた会場であったと思います。

2階への階段を上りつめたところのラウンジには、山口高校生徒共同制作の陶板「潮」が立てかけてありました。なかなか力のこもった大作で、運搬も大変であったことと推測されますが、会場の中央あたりに正面から目につく形であったらと少し惜しまれました。

しかし重量のある大作であるだけに、運び入れができなかったり、適当な壁がなかったりでやむを得ぬ措置であったことと思います。

作品全般について言えば、少々苦言めくようですが、力強い作品に欠けるうらみがあります。また指導者に恵まれないせいか、未消化な作品も出品されています。

これは本展覧会が、奨励の立場からすべての学校に5点以内の出品を認め、審査も厳選という形をとらないところに起因すると思います。片や長い歴史をもっている山口県学校美術展がありますが、この方が相当厳しい審査を実施し、これに入選・入賞を果たすことが至難であるのと対照的です。しかし山口県を代表して全国高校総文に出品する作品は、本展覧会の中から選ばれるわけですから、山口県高校の威信にかけても、力のこもった代表作品が展示されなければならないと思います。それと同時に適当な指導者が得られず、当然レベルもなかなか上がらない学校のことも、これからの課題として考えていくべきであろうかと思っています。

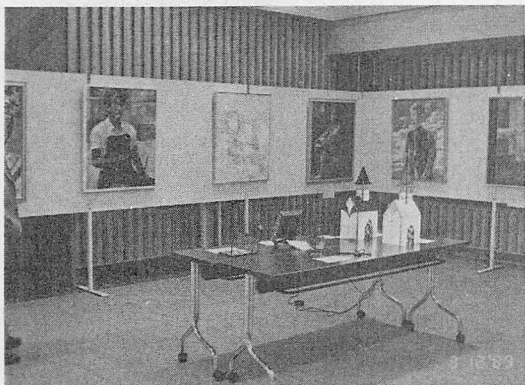


壁に貼られた展示会場図

美術・工芸の講評会は、坂倉秀典先生（大津高）、石飛一枝先生（萩商高）、古賀隆光先生（萩工高）の3名が担当されましたが、特にその場に出席している出品者の作品を中心に懇切な講評と指導が行われました。これに対し少し残念に思うのは、折角自分の作品が出品されていないが、会場に足を運ぶ生徒がまだまだ少ないということです。率直に言って展覧会に自分の作品を出品することの意義は、他の作品の中にある自分の作品を自らの目で眺めることにあるの

です。言いかえれば、会場に足を運ばない出品者は何の収穫もないということになると思います。

指摘しておきたいのは、以上のことに対する理解が、学校当局にも生徒達にも十分にできていないのではないかと思います。作品を送れば事足りるという考えを改め、少なくとも出品者は全員足を運ぶべきだという気持ちを持ち、また足を運べるための方途を講じてほしいと思います。



絵画・工芸展示会場(体育室)の一部

なお本展会期中に平成2年度全国高校総合文化祭(山梨県)に出品される作品を選考しましたが、絵画作品の次の3生徒に決定しました。

- 「自画像」 柳井高校2年 金澤章代
 - 「ひまわり」 徳山高校2年 野村明美
 - 「自画像」 野田高校2年 定金正嗣
- デザイン・彫刻・工芸からは該当がありませんでした。

また平成2年度の県総文展示関係部門は10月26・27・28日の3日間、柳井高等学校の主管で柳井市体育館を会場として開催されることになりました。皆様のご協力をお願いします。

一 県高校総文祭美術・工芸部門の歩み 一

思えば暑い夏でした。山口県が昭和58年8月、第7回全国高校総合文化祭を引き受け、資料づくりや準備に明け暮れた日々。37度を超える炎天のパークロードを行くパレードの情景。全国

から送られて来た代表作品が県立美術館の壁を埋めた様は、未完成のむんむんするような雰囲気立ち込めていました。壁面の調整もかねて、ともに並べられた県内高校生の作品も決して見劣りするものではありませんでした。

それを契機に山口県にも高文連が生まれ活動の基盤も整備されて行く中で、県高校総文祭美術・工芸部門も、書道、写真と合同で、早や6回の展覧会を行って来ました。全国高校総文山口大会に備えて、それ以前の55年度から行った4回と全国大会を加えれば、11回を数えることになります。

昭和59年度の第6回までは、展示会場の都合でもっぱら山口県立美術館と宇部文化会館を使用していましたが、昭和60年・第7回を新しくできた下関市美術館(下関第一高校主管)で行って以後、8回・岩国市文化会館(岩国高校主管)、9回・防府市公会堂と文化福祉会館(防府西高校主管)、10回・徳山市体育館(徳山高校主



開会を告げるファンファーレ(山口県立美術館)

管)、11回・萩市民館とサンライフ萩(萩工業高校主管)そして来年度、12回を柳井市体育館(柳井高校主管)と各都市を巡回する形になっています。

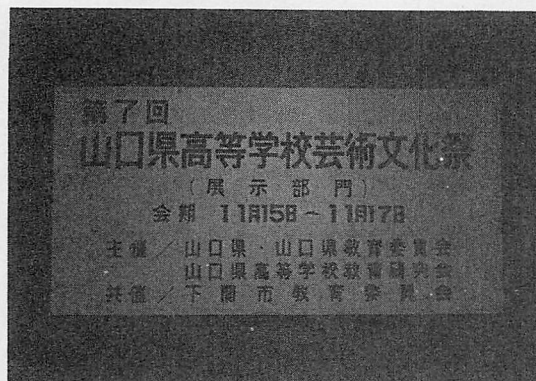
それぞれ前体験のない学校が主管校となって苦労を重ねているわけですが、しかしそれぞれの所で高校生の文化活動に刺激を与え、地域の関心を高めて来た意義は大きいと思います。

現在も問題点としては、従来から実績を重ね

ている山口県学校美術展との兼ね合い、作品レベル向上をはかる問題、開催施設と時期の問題等があり、将来的には国際交流のことも考えて行く必要があります。

なお美術・工芸の教育をめぐっては高文連の他に高教研および造教研においても、担当者が

お互いに協議や研修を行う機会があり、その場合には指導課主事（高教研・造教研・教育課程等）と文化課主事（高文連）にも出席していただいて総合的に議論をすすめるなど、望ましい方向にあると考えています。



第7回山口県高等学校芸術文化祭(下関市立美術館に於いて)



第10回山口県高等学校総合文化祭 講評会風景(徳山市体育館に於いて)

書道部門

理事 荒瀬 宏

(防府高等学校)

全総文は既に14回の展示を終えたが、第7回(昭和58年)は山口市を中心に本県で開催された。書道部門では、それと相前後して、宇部工高の岡正哉教諭が全国各地を視察見学した。また、徳山高の松田政道教諭も文化課指導主事として、展示部門を総括し、第7回全総文は盛会裡に終了した。それ以後、下関第一高の桑野忠勝理事長は岐阜・岩手・大阪・愛知・熊本など毎年各地へ出向き、山口県高文連発足への研究、提言を行った。

書道部門の過去の出品参加校は別表のとおりである。その選定は高教研書道部会理事会の場で話し合い、県下各地域のレベルアップに配慮した。

(本年度岡山大会の出品と講評会)

- 山口高 3年 岡 砂夕理 創作“茂吉の歌”
- 宇部工高2年 井上 司 臨書“礼器碑”
- 高水高 3年 河野 順子 臨書“建中帖”

講評会では数多くの作品の中から約30点がスライドを用いて批評された。その中の一つに山口高の岡さんの仮名創作が取り上げられ、潤渇と運筆の速度、落ちついた書きぶりを考える好例として注目を集めた。この他、講師の浅野五牛先生は、無限の力を秘めた高校生の若々しい作品を選定され、驚歎しておられた。引続いて出品した生徒の交流会もあった。

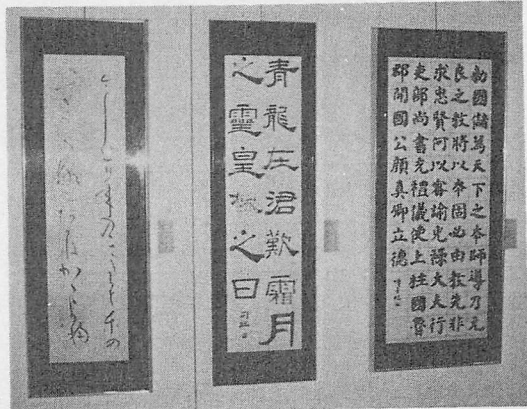
(全総文に出品参加して — 生徒の感想文)

- 岡山総合文化祭に出品すると聞かされた時驚きました。しかし出品するからには自分の持つ

ている力をすべて出そうと一生懸命書きました。そして岡山の展示会場には全国から集められた優れた作品が並んでいました。どれを見ても素晴らしく一つ一つ何か感じるものがありました。自分の作品も見ましたが他の作品と比べると何か物足りない気がしました。全国の人達の作品を見てとても勉強になり、また良い経験になりました。

(宇部工高 井上 司)

●私は全国高校総合文化祭に参加し、初めてのことで圧倒されるばかりでした。開会式では、全国からたくさんの高校生が一堂に集まり、舞台裏まで全て高校生の手で行われていました。まさに自分たちの手で総合文化祭を盛り立て、つくっているというところに私はすごく感動しました。また、書道部門では全国の高校生の作品を直に見ることができ、その迫力が心に伝わってきました。さらに全国の高校生との交流会などもあり、とても緊張しましたが良い経験になりました。このように私が全国総合文化祭に参加することが出来たのも書道部のみんなが支



(写真) 山高 宇部工 高水

えになってくれたおかげだと思っています。これからも、岩見屋先生、村田先生のもとで励み頑張ってください。

(高水高 河野順子)

※次年度山梨県へは下関西高・中村女子高・宇部商高3校が出品参加と決定しています。

山口県高等学校総合文化祭展示部門(美工・書・写真)は既に昭和55年、県美術館で開催され、58年には全総文のリハーサルとして宇部で、本番は県美術館で2度展示した。以後、下関・岩国・防府・徳山・萩地区と会場を移したが、来年度は柳井地区引受けが決定した。書道部門は専任教師極少にて、各地の部顧問には多大なご迷惑をかけ続け、ご協力に謝しつつ、地域ごとの盛り上がり期待しているのが現状である。

別表のように各地域の先生方のご指導で、年々出品数、参加校ともに増加してきた。その中で、去る12月7日、防府高で部門会議を開き、中島指導主事他15名が集まった。高文連の規約と活動への理解、本年度の反省など意見を交換した。

●出品規定について

(展示日時)一生徒の参加可能な日時の選定。
(多様な作品形式の研究)ーサイズの自由化を会場壁面積と併せて考える。(出品点数)ー全総文規定も考慮しながら自由に考える。(釈文の新設)ー書き下し文を添えて出品する。

●作品目録について

作品題名の表示法を統一するー臨書は臨「〇〇」とし、創作は各論あり検討続行。

●自刻印の作成ー学校印、同好会、社中印、遊印を廃し、拙なくとも生徒自身の手で作る意識を持たせたい。

●教師の姿勢一常に「生徒とともにある教師」生徒の創る意識を高め、安易に「手本」を与えず、共に苦悩しよう。

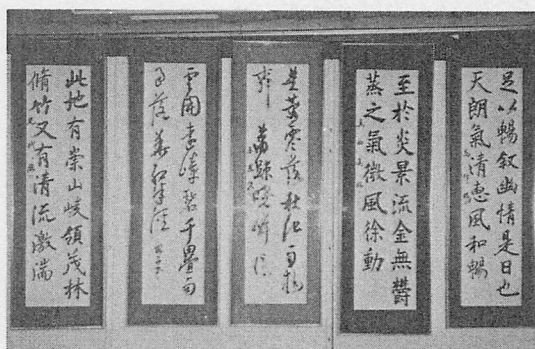
●臨書と創作の割合について

別表のとおり、指導が一方に片寄らず、特に創作の内容ー盗作にならぬよう高校生らしい力強さがほしい。

(県総文に出品参加してー生徒の感想文)

●先日開催された県総合文化祭に行つての私の感想は、「すごいなあ」の一言ですが、作品を出品した私自身は、日ごろ自分と同じ年代の人達の作品をみることができるとは少ないので、他の作品と自分の作品をみて、反省にもなりましたし、これからの「やる気!？」みたいなものも出てきて、よい勉強になりました。

(萩高 安田真由美)



安田さんの作品右から二番目

全総文出品校経過表

	1(回) 昭52	2 53	3 54	4 55	5 56	6 57	7 58	8 59	9 60	10 61	11 62	12 63	13 平成元	14 2
開催県	千葉	兵庫	大分	石川	秋田	栃木	山口	岐阜	岩手	大阪	愛知	熊本	岡山	山梨
出品校		山 口 宇部工 小野田工	徳 山 防 府 下関南	下第一 山口中央 萩光塩	宇部工 下関南	萩 商 防 府 高 水		下第一 防 府 宇 鴻	小野田工 下関西 香 川	熊毛北 豊 北 徳 山	山口中央 萩光塩 下関南	岩 国 熊毛南 早 鞆	山 口 宇部工 高 水	

県総文出品校一覧

学校番号	学 校 名	顧 問	9回(防府) 出品展数	臨書	創作	10回(徳山) 出品展数	臨書	創作	11回(萩) 出品展数	臨書	創作	臨書	創作
2	久 賀	岡 村	2	1	1	2	1	1	2	2		4	2
3	岩 国	渡 辺	3	2	1	4	3	1	4	2	2	7	4
4	岩 陽	横 田	3	3		4		4	4	3	1	6	5
7	坂 上	吉 川	3		3								3
9	高 森	木 坂	3	3		4	4		4	4		11	
13	熊 毛	南 岡	3	2	1	4	2	2	3	2	1	6	4
16	光	宇 山				4	1	3				1	3
17	光 丘	山 本				3		3	3		3		6
18	熊 毛	北 高				5	1	4	(4)		4	1	8
19	下 松	河 村				2		2					2
20	華 陵	藤 井				3	2	1				2	1
22	徳 山	有 富	3	2	1	5	3	2	4	4		9	3
23	徳 山	北 山	1		1	3	3		2	2		5	1
24	徳 山	商 小				4		4					4
26	鹿 野	山 田				2	2		2	2		4	
27	新 南	陽 金				4		4	4	3	1	3	5
30	防 府	荒 瀬	3	2	1	4	4		4	4		10	1
31	防 府	西 村	3	2	1	3	2	1	3	2	1	6	3
32	防 府	商 伊	1	1								1	
33	山 口	松 永	3	2	1	(4)		4	4 (4)		5	2	10
34	山 口	中央古	3	3		3	3		4	4		10	
37	宇 部	桑 田	3	1	2				3	3		4	2
38	宇 部	中央豊	3	3		3		3	3	2	1	5	4
39	宇 部	西 (古				4	2	2	3	3		5	2
40	宇 部	商 佐	3	3		(3)	2	1	3		3	5	4
41	宇 部	工 松	3	3		(1)	1		4	4		8	
43	小 野	田 工	(3)	3		3	3		4	2	2	8	2
45	美 祢	佐 貫							4	4		4	
46	大 嶺		1		1	(2)	1	1	2	1	1	2	3
48	田 部								1		1		1
52	下 関	西 生	3	3		3	3		4	4		10	
54	下 関	第一 桑	3	3		(4)	4		4	4		11	
58	豊 北	頼 岡							4		4		4
59	日 置	農 〃							4		4		4
60	大 津	蘭	3	3		4	4		4	3	1	10	1
62	萩 小	倉							4	2	2	2	2
63	萩 商		3		3	4		4	4		4		10
66	奈 古								(1)	1		1	
101	高 水	岩見屋	3		3	4	3	1	4	3	1	6	5
104	桜 ケ	丘 山				3	2	1	3	1	2	3	3
105	三田尻	女子 清	3	3		2	2		4	4		9	
106	多々良	山 田	2	1	1	2	1	1	1	1		3	2
107	中村	女子 米	3	2	1	3	2	1	4	4		8	2
108	野 田	長 広	3	2	1	(3)	1	2	3	1	2	4	5
112	美 祢	中央							4		4		4
113	香 川	田 中	3		3	(3)		3	②		2		8
117	早 鞆					2	2		3	3		5	
118	下関女短	井 上							1	1		1	
120	萩 光	塩 佐	3	1	2	2	1	1	4	3	1	5	4
(計)			82	54	28	122	65	57	141	88	53	207	137
(参加校)			30	66%	34%	38	53%	47%	43	62%	38%	60%	40%

写真部門

写真部門 3年間の歩み

理事 環 乃 琢司郎

(岩国高等学校)

はじめに

「光陰矢の如し」とかいいますが、月日のたつのは早いもので、県高文連も発足3年目が終わろうとしています。写真部門では、美術・工芸、書道の2部門と合同で、山口県高等学校総合文化祭（以下、県総文と称します）の一環として、例年12月に展示会を開催しています。平成元年度の県総文を中心として、この間の記録をまとめ報告してみたいと思います。

昭和62年度

待望の設立記念式典を6月20日に防府市公会堂で挙げ、第9回県総文は防府西高を主管校として12月25日から27日まで、防府市文化福祉会館で開催されました。出品校・点数は次のとおりです。

岩国、岩陽、田布施工、下松工、徳山、防府、防府西、宇部、宇部西、下関第一、響、三田尻女子、多々良学園の13校から77点。

過去8回の伝統もさることながら、この催しの趣旨は、高校生による創造活動の向上・充実を図るとともに、相互の交流を深めることにより、高校における芸術活動の振興に資するところにある、とされています。

出品された写真を見て、内容はともかくとして出品校数・点数の面からして少し寂しい思いがしました。積極的な参加が期待されるところです。

第11回全国高等学校総合文化祭（以下、全総文と称します）は、8月4日から7日まで、名古屋市博物館で開催されました。31都道府県にまたがる約320の作品のうち、本県からは宇部西、響、下関工の3校から5点の力作を出品していただきました。

昭和63年度

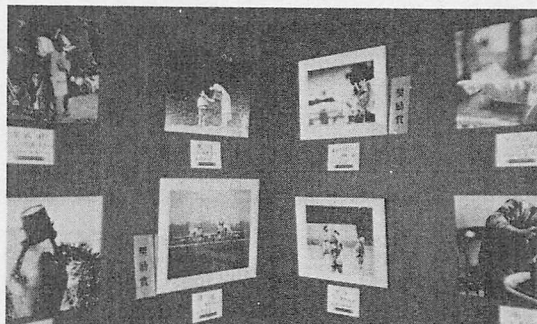
第10回県総文は徳山高を主管校として、12月2日から4日まで、徳山市体育館で開催されました。出品校・点数は次のとおりです。

岩国、岩陽、光、光丘、熊毛北、下松、下松工、徳山、新南陽、南陽工、防府、防府西、山口中央、宇部、小野田、下関第一、響、聖光、三田尻女子の19校から105点。

前年度よりも出品校数・点数も増え、作品内容も充実してきたと思われます。例年のとおりですが、今回も講評会など地区の先生方には大変お骨折りを願いました。

なお、本年度は初の写真部会を2月17日に岩国で開き、関係顧問16名が参集しました。写真部門の年間事業や御意見・要望などについて協議しましたが、席上正式な役員（専門部理事）の選出が行われ、岩国高：環乃が向こう2年間務めることになりました。よろしく願い致します。

第12回全総文は、8月3日から7日まで、熊本市で開催されました。全国から約230点の作品が展示されておりましたが、本県からは岩国、下松工、宇部、響、三田尻女子の5校からすぐれた作品を送りました。全国的に言えば、本県



全総文 8月7日（熊本市青年会館）

のレベルは必ずしも高いものではないようです。

なお、本年初めて全国高文連写真専門部会が開かれましたが、審議未了のまま散会しました。

平成元年度

発足3年目をむかえ、第11回県総文は萩工高を主管校として、12月1日から3日まで、萩市民館で開催されました。出品校・点数は次のとおりですが、初年度と比べると倍増してきました。

岩国、岩陽、岩国工、高森、柳井、田布施工、光、熊毛北、華陵、下松工、徳山、防府、防府西、宇部、宇部西、小野田、美祢工、下関第一、響、日置農、萩商、萩工、徳佐、多々良学園の24校から156点。

毎年全総文に出品している5点の作品については、ローテーションも加味して一部関係者の独断と偏見に基づいて決定してきました。昨年度の初の写真部会でもこの件について御意見があり、今年度からは県総文開催地区の顧問の先生方で協議されて決定することにしました。

今回の萩地区では、写真大学出身で地元で写真館を営業されている民間の方にも一枚加わっていただき、いわば公選の形で次の5点を、来年度に山梨で開催される第14回全総文に出品することになりました。いずれも優秀な作品です。

岩陽高2年村田朋恵「Time」、同校2年行武弘恵「妹」、柳井高1年上村佳子「迷子」、同校2年森光泰志「高校生活Ⅰ」、萩商高2年岡野美保「光華」。

県総文に出品される作品は、年を追うごとに質・量ともに向上してきていると思われますが、今後の御参考のために、今年度の開催要項から主なところを抜粋してみたいと思います。

作品規定

ア、題材 自由（白黒、カラーいずれでも可）

イ、種類 単写真、組写真

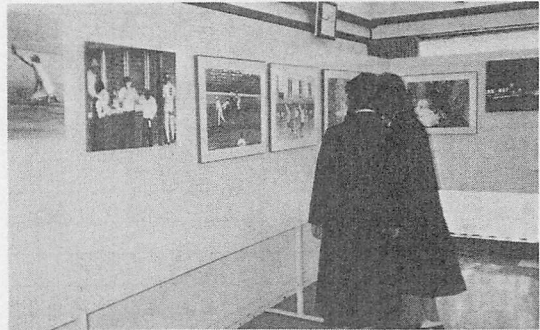
ウ、作品の大きさ及び応募点数

(a) 単写真 四つ切り～全紙（木製パネル）

(b) 組写真 全紙3枚分以内（木製パネル）

(c) 各校10点以内とする。

なお、今年度の写真部会は、2月19日に岩国高校で開くことにしています。



県総文 12月3日（萩市民館）

第13回全総文は、8月2日から6日まで、倉敷市立美術館で作品展示が行われました。2室に別れ約300点が展示されていましたが、本県関係分は光、徳山、防府西、山口中央、下関第一の各校から1点ずつ計5点ほど立派な作品をお願いしました。全総文では例年、約1割の作品に奨励賞と称して銀紙がはつてあります。残念ながら、私が過去2回にわたって視察した範囲内では、本県には該当作品はなかったと思います。

全総文と同時に、全国高文連写真専門部会が開かれ、出席者及び委任状をあわせ35都道府県の参加をもって初めて部会が成立しました。主な協議事項は、役員の承認・補充について、出品点数について（学校数に応じて2段階にする）でした。

おわりに

「写真の読み方について」という書物があります。写真は見るものではなくてその写真から何を読みとるのか、立場を替えれば作者は自分の写真で何を語りたいのか、ということです。写真は映像の一つです。我々の生活で、映像に接しない日は1日だってありません。これまでに写真部門発展のために御尽力いただいた方々に感謝するとともに、今後の皆さんの御協力をお願いします。

山口県高等学校文化連盟自主事業一覧

(◎は昭和62年、○は昭和63年、●は平成元年実施)

学 校 名	弘 中 孝 ピ ア ノ	マ リ ン バ	フルート バリトン	山 口 県 交 響 楽 団	巡 回 演 劇 教 室	東 京 金 管 五 重 奏 団	学 校 名	弘 中 孝 ピ ア ノ	マ リ ン バ	フルート バリトン	山 口 県 交 響 楽 団	巡 回 演 劇 教 室	東 京 金 管 五 重 奏 団
安 下 庄	○						美 祢 工				○		
久 賀	○						田 部				●		
岩 国						●	西 市				○		
岩 陽						●	豊 浦						
岩 国 商					◎		長 府						●
岩 国 工							下 関 西						
坂 上			○				下 関 南						
広 瀬			○				下関第一						
高 森							下関中央						
柳 井							下 関 工	◎					
柳 井 商							響				●		
柳 井 工					●		豊 北	◎					
熊 毛 南	○						日 置 農	○					
田布施農							大 津	○					
田布施工							水 産						
光	○						萩	○					
光 丘							萩 商	○					
熊 毛 北					○		萩 工						
下 松	○						徳 佐			分○	○		
華 陵	○				●		奈 古				●		
下松工				●			下 関 商						
徳 山							高 水					◎	
徳 山 北		○					柳井学園					○	
徳 山 商			○				聖 光						
徳 山 工						●	桜ヶ丘						
鹿 野					●		三 田 尻						
新 南 陽	○						多々良						
南 陽 工		●		◎			中村女子	○					
佐 波			○				野 田	○					
防 府							山口鴻城						
防 府 西						●	宇部鴻城						
防 府 商		定○				●	宇部女子						
山 口			定◎				美祢中央						
山口中央	○						香 川				●		
西 京	◎						サビエル						
山 口 農							早 鞆						
宇 部	○						下関女子	◎○					
宇部中央		定●			○		長 門						
宇 部 西							萩 光 塩						
宇 部 商			○	◎			盲 学 校	○				●	
宇 部 工							聖 学 校						
小 野 田		定○					田布施養			分徳●	◎		
小 野 田 工		定○					防 府 養	◎		○			
厚 狭			●				宇 部 養		○		●		
美 祢	◎						下 関 養						
大 嶺					○								

第13回全国高等学校総合文化祭記録

高文連事務局 中 邑 立 夫

「創造のかけ橋、岡山から未来」をテーマに8月2日から8日まで1週間にわたり、第13回全国高等学校総合文化祭が、岡山県の3市（岡山市、倉敷市、津山市）10会場で全国から集った延べ1,391校1万3,000余名の生徒が参加して盛大に開かれた。

総合開会式では式典の後、岡山県の高校生によるダンス・合唱・演劇・オーケストラ・郷土芸能・映像など多彩なステージがくりひろげられた。中でも、今大会に特別に招待された大韓民国ソウル市の現代高等学校の生徒16人による混声合唱「アリラン」など、華やかな民族衣装とともに、一段とステージを盛りあげ、喝采をあげた。

この全総文祭は全国から選ばれた高校生の代表が、音楽、演劇、美術など、多岐にわたって日ごろの活動成果を披露するもので、岡山大会では14の部門に分かれて実施された。大会のトップをかざるパレードは、今回はじめて雨のため中止のやむなきにいたったことは残念なことであった。今大会の特色としてダンス部門が協賛種目として加わったことがあげられる。

山口県からは別表のとおり、特別参加の県立聾学校生徒による陶ヶ岳太鼓（郷土芸能部門）を含め12部門にわたり、21校280余名（作品12点）が参加した。それぞれ持ち味のあるステージや展示をとおして、全国の高校生と交流を深めた1週間であった。



第13回全国高等学校総合文化祭 総合開会式 大韓民国 現代高校



「陶ヶ岳太鼓」を演奏する聾学校生徒(津山文化センター)



佐波高校のマーチングバンド(岡山市総合文化体育館)



別役実氏から講評を受ける岩陽高校演劇部(倉敷市民会館)



舞台裏の岩陽高校演劇部(倉敷市民会館)

全国高等学校総合文化祭参加校一覧(山口県高文連)

第13回 岡山大会 スローガン『創造のかけ橋 岡山から未来へ』

部 門	高等学校名	出演人数	出品点数	備 考
合 唱	香 川	43		岩間芳樹作詩・広瀬量平作曲 混声合唱組曲「海の詩」
演 劇	岩 陽	30		別役実作「赤ずきんちゃんの森の狼 たちのクリスマス」(60分)
吹 奏 楽	防 府 西	68		
器楽・管弦楽	熊 毛 南	29		管弦楽組曲No.2より序曲(中間部) とロンド(J・S・バッハ)
パレードマー チングバンド	佐 波	38		県代表 (1)
パ レ ード	宇 部 女 子	15		
日 本 音 楽 (郷土芸能)	聖 光	12		筑紫歌都子作曲、曲目・宍道湖の夕
	聖 光	19		陶岳太鼓
吟 詠 剣 詩 舞	下関女短大 付属 高 校	2		発表(13名)合同発表構成吟「高杉 晋作」 独吟・合吟・書道吟・剣舞・詩舞で 構成する。(20分)
	下関工業	3		
	萩 工 業	3		
	聖 光	5		
美 術 工 芸	岩 国	1	1	油絵F30号(牛骨と静物)
	下 松	1	2	油彩20号「港」・デザインB1 イメージ表現「地球」
	萩	1	1	油絵30号
書 道	山 口 中 央	1	1	小画仙半切
	宇 部 工	1	1	小画仙半切
	高 水	1	1	連落額
写 真	山 口 中 央	1	1	全紙(木製パネル張り)
	徳 山	1	1	全紙(木製パネル張り) 白黒
	光	1	1	全紙(木製パネル張り)
	防 府 西	0	1	全紙(木製パネル張り)
	下関第一	1	1	全紙(木製パネル張り)
合 計	21校	277	12点	

第14回 山梨大会 スローガン『はばたけ創造の翼 いま山梨の空に』

部 門	高等学校名	出演人数	出品点数	備 考
合 唱	防 府	50		混声四部合唱
吹 奏 楽	下 関 商	60		指揮 中村芳喜 曲未定
器楽・管弦楽	下関第一	40		
パレードマー チングバンド	佐 波	45		
パ レ ード	佐 波	(45)		
日 本 音 楽	柳 井	15		楯城 護作曲 曲目・佐保姫
吟 詠 剣 詩 舞	下関女短大 付属 高 校	4		構成吟 15分
	下関工業	3		
	聖 光	4		
美 術 ・ 工 芸	徳 山	1	1	油彩 B1サイズ
	柳 井	1	1	油彩F30号
	野 田	1	1	油彩F30号
書 道	下 関 西	1	1	画仙紙半切(タテ) 漢字
	宇 部 商	1	1	半切(タテ) 隷書作品(漢字)
	中村女子	1	1	半切縦 題名「李白憶旧遊詩巻」
写 真	岩 陽	2	2	全紙2点
	柳 井	2	2	単写真2点
	萩 商	1	1	題「光華」
合 計	15校	232	11点	

第4回全国高等学校／文芸コンクール 都道府県別応募状況一覧

区 分	学 校 数	小 説	評 論	詩	短 歌	俳 句	文芸部誌	応 募 点 数
1 北 海 道	5	1		18	12	32		63
2 青 森	28	1		50	50	50		151 (1,504)
3 岩 手	31	13	1	59	122	104	5	304 (5,794)
4 宮 城								
5 秋 田	2			6	6	9		21
6 山 形								
7 福 島	3			7	3	3	2	15
8 茨 城	2						2	2
9 栃 木	9	12	1	47	3	3	1	67
10 群 馬	6	8		44	6	18	3	79
11 埼 玉	4	2		7	86		3	98
12 千 葉	3		1	1			1	3
13 東 京	7	1	2	10			3	16
14 神 奈 川								
15 山 梨	13	2	1	4	9	44	1	61 (1,493)
16 新 潟	2				6		1	7
17 富 山	3	2		11	3			16
18 石 川	11	7	1	56	57	237	2	360
19 福 井	9	2		5	15	12		34 (223)
20 長 野	3			1		30	2	33
21 岐 阜	7	8	1	16		3	3	31
22 静 岡	8	17		19	6	9	3	54
23 愛 知	9	9		7			4	20
24 三 重								
25 滋 賀	3	1		4			3	8
26 京 都	4	5		1			2	8
27 大 阪	9	6		17	3		4	30
28 兵 庫								
29 奈 良	3	3		7	3	3	1	17
30 和 歌 山	2			1	5			6
31 鳥 取	2	1		2	2	3		8
32 島 根	4	6		9	3	15	1	34
33 岡 山	4	4		10	3	9	1	27
34 広 島	1	1					1	2
35 山 口	4	6	1	23	15	18	2	65
36 徳 島	2	2		2				4
37 香 川								
38 愛 媛	4	4		12	3	12	1	32 (654)
39 高 知								
40 福 岡	6	5		24	6	12	3	50
41 佐 賀	1	1						1
42 長 崎	4	11	1	20	8	21	1	62
43 熊 本	3	1			3		2	6
44 大 分	11	5		12	35	44		96 (303)
45 宮 崎	2	3		6				9
46 鹿 児 島								
47 沖 縄	1					90		90
合 計	235	150	10	518	473	781	58	1,990 (11,283)

()内は県又は学校段階での応募数を含めた数

部門別応募状況一覧

区 分	応募点数	応募者数	公 私 別		学 年 別			男 女 別		備 考 人
			公	私	1	2	3	男	女	
小 説	150 (121)	148 (117)	131	17	39	63	46	42	106	
文芸評論 文芸研究	10 (6)	10 (6)	8	2	1	1	5	3	4	共同研究3
詩	518 (568)	346 (388)	303	43	91	134	121	70	276	
短 歌	473 (361)	284 (186)	190	94	50	124	110	57	227	
俳 句	781 (712)	501 (489)	439	62	90	189	222	226	275	
文芸部誌	58 (62)	58 (49)	43	15						
合 計	点 1,990 (1,830)	人 1,347 (1,235)	1,114	233	271	511	504	398	888	

入賞作品数一覧

区 分	応募点数	応募者数	最 優 秀 賞	優秀賞	優良賞	入 選	合 計
小 説	150	148	◎1	6	8	6	21
文芸評論 文芸研究	10	10		2	2	2	6
詩	518	346	◎1	5	10	16	32
短 歌	473	284	1	5	9	13	28
俳 句	781	501	1	5	9	15	30
文芸部誌	58	58	特別賞1 ◎1	4	7	奨励賞5	特別賞1 17
合 計	点 1,990	人 1,347	特別賞1 5	27	45	57	特別賞1 134

表() 前回 第1回(昭和61年度) 17 都道府県 110校 890点 630人 ◎印 文部大臣奨励賞
 第2回(昭和62年度) 30 都道府県 202校 1,977点 1,297人
 第3回(昭和63年度) 35 都道府県 210校 1,830点 1,235人
 第4回(平成元年度) 39 都道府県 235校 1,990点 1,347人

第4回全国高等学校 文芸コンクール／受賞作品

小 説 部 門	優良賞 優良賞 入 選	山口県立防府高等学校3年 島 瀬 武 彦 山口県立防府高等学校3年 坪 野 英 司 山口県立防府高等学校3年 長 富 剛 士	『乱 刀』 『絆』 『桜色の出逢い』
評 論 研 究 部 門	優秀賞	山口県立防府高等学校3年 島 瀬 武 彦	『坂口安吾論』
詩 部 門	入 選	山口県立防府高等学校2年 堀 野 真 司	『朧 月』
文 芸 部 誌	優良賞	山口県立防府高等学校 文 芸 部	『レセダ 35』

文芸評論・文芸研究部門



〈優秀賞〉受賞作品 坂口安吾論

山口県立防府高等学校3年
島 瀬 武 彦

坂口安吾は基本的には短編作家であったと言われている。彼はその出世作「風博士」以来、「黒谷村」「白痴」「青鬼の禪を洗う女」等、数多

くの短編の秀作を遺し、同時に「教祖の文学」始め、有名な「墮落論」等の独自の評論的なエッセイを遺している。しかし、彼はなぜか長編

小説となると悉く失敗してしまっている。僅かに書き上げた長編小説として「吹雪物語」が存在するが、これも安吾自身の意気込みとは別に、明らかなる失敗作として評価が一致している。これを以って坂口安吾は短編作家であると言われているのだ。しかし、彼の場合、短編しかモノにならなかったことには理由がある。それは、彼のその文章が、余りにも性格に影響されたものであったからだ。

彼の性格は、一言で言うならば豪放磊落である。そして、その豪放さが、そのまま文章化されているのだ。私は彼程に物事を言い切る作家を知らない。読んでいて気持ちの良いくらい物事を言い切るのだ。例えば次の様な文章がある。

「法隆寺も平等院も焼けてしまっ一向に困らぬ。必要ならば、法隆寺をとり壊して停車場をつくるがいい。我が民族の光栄ある文化は、そのことによって決して亡びはしないのである。」

この文章は、彼の性格的文章をよく表現している。それと同時に、これは彼の割り切れた物の考え方をよく示している。彼にとって物は物であり、人は人でありそれ以上でもそれ以下でもない。法隆寺も停車場も、そこに伝統という人の築いた概念を除いてしまえば単なる物でしかないのだ。

しかるに、これによって彼の文章（作品）は決して長続きはしない。なぜならば、彼は物を見た瞬間、咄嗟にその本質を見抜いてしまい、それを表現するのに、最小限の言葉しか必要が無いからである。彼は、本質を見抜く力を持った客観的な作家としての眼と、豪放で単純な人間臭い挙動が同居した親しみ易い文章を持った作家であり、長く書くことにより読者を自分のペースに引き込むタイプの作家とは違って、一瞬の輝きに賭ける作家なのだ。事実彼は、その作品中に「作家は山師だ。」といった意味の文章を書いている。その様な彼が、長編小説を書くことは基本的に無理があるのだ。

しかるに、彼の作品群の中に「日本文化私観」

という非常に興味深い作品がある。これは、日本文化に対する安吾の意見を述べたエッセイであり、同時に彼の性格的文章が駆使された、魅力的な作品の一つである。先に述べた文章も、実はこの作品中のものである。しかし、この作品は、ある一つの点において、彼の作品とは異なっている。それは、この作品中に、坂口安吾の自己の文学に対する姿勢が言明されている点である。

果して、坂口文学とは如何なるものであるのか。

坂口安吾という作家の性格は掴み所が無い。先程は豪放磊落と表現した。それは多分事実であろう。しかし、それでいてどこか根は小心なのではないかと感じさせたり、それを隠す為にワザと豪放に振舞っているのではないかという疑問を感じさせるところが多分にある。確かに彼の文章は豪快である。しかし、その作品構成に驚く程の緻密さが存在するのも、又、事実である。それと同時に、生活者としての彼の自壊的な、いわゆる無頼な生活を続けた一面、宗教を学び、悟りを開かん為に粗食を続けたというメンタルな一面も存在した。

この様な彼の二律背面性とでも言うべき得体の知れなさというものは、彼の作品に少なからず影響を与えている。例えば、「道鏡」「信長」の様な歴史小説はその独自の人間臭い文章に基づいた、表裏の無い、いわば考えさせずに読ませる作品である。又、そういった作品が存在する一方で、叙情的な「夜長姫と耳男」や「紫大納言」といった寓話が存在し、同時に「黒谷村」や「白痴」等の心理小説、「風博士」というファルス、「不連続殺人事件」といった推理小説迄が存在したのである。

これは明らかに多才などという言葉では説明出来ない。強いてこれら全ての作品を総括した坂口安吾を言葉で表現すると巨人とでも言う他ない。彼は精神の巨人であったのだ。しかもこの巨人は自分の家を持っていなかった。その余

りの大きさ故に、既存の作品スタイルには収まり切れず、常に新しい自分の家を捜し続けたのだ。誰しも、自分の理解を超えた人物には、得体の知れない不安を感じるものだ。おそらく、坂口安吾とはそういった存在であったのだろう。我々の目にする彼の言動、作品は、彼の巨大さの一つ一つの側面でしかなかったのではなからうか。そういう意味で、彼は、文学を超絶した文学者であった。

しかし、そういった彼の多彩な作品にあって、ある一点において、それらは常に、共通した性格を持っている。それは、あるがままの自然さ、又は、偶発の美学とでも言うべきものである。彼の作品は実に自然である。そこには文学的な誇張や、言葉の嘘は存在しない。常に現実 に即した成り行きで展開する彼の作品には、読み易さというものではない、妙にじっくりとした真実がそこに存在している。

それと同時に、彼の作品はどれをとっても美しい筈は無いのである。彼はその作品内に、美しい言葉を添えたことは無い。又、感情を動かされる様な記述もしていない。ただあるがままを表現しているにすぎない。であるのに、あの「桜の森の満開の下」の狂おしい程の美しさは、一体どう説明すれば良いのであろう。「黒谷村」「木々の精、谷の精」の情景の美しさは、「紫大納言」「夜長姫と耳男」の悲しみは、一体どういうことであらうか。

これらの答えの全ては、実は「日本文化私観」の中にある。それが、私が先程からこの作品を強調する所以である。この作品は、彼の文学史の中において記念碑的な作品であると同時に、彼の自己の作品世界、芸術を確立し得た作品である。彼はこの作品で一つの到達点を見た。彼のこの後の作品は常にこの「日本文化私観」の理念が底流に流れている。又、作品のみならず、その生活すらも、この作品の理念が働いているかの様に思われる。それ程に、この作品の持つ意味は大きい。この作品をして、坂口安吾の作

品スタイルの確立と言うことは出来ないが、これを以て彼に一つの作品形質が出来上ったのは事実である。

しかるに、彼はその「日本文化私観」内において、自らの文学についてを述べる前提として美について、非常に面白い記述を行なっている。それは、らしさと自己の思考に対しての確信に満ちた文章であり、同時に、あるがままの自然という彼の作品性格の証明をそこで行なっているかの様な記述である。

彼はそこで、過去において自分の見た美しい構造物というものを三つ挙げている。それらは、少々奇妙なものである。しかし、彼にとって美しい物とは平等院や法隆寺といった「一応、何か納得しなければならぬような美しさ」などと違う、「美しくするために加工した美しさが、一切ない」物だと言う。そういう意味で彼は三つの構造物、つまりは山岸に建つ小管刑務所、ドライアイス工場の建物、入江に浮ぶ駆逐艦といった物を「直接突当り、補う何物もなく、僕の心をすぐに郷愁へ導いて行く力」を持つ美しき物としている。これらが本当に美しいかどうかということは、実際に見てみない限り判断しかねる。しかし、彼がこれらの物に魅入られたことは多分事実であらう。ならば、美という観念が個人の性格差と同様な不特定概念である以上、安吾がこれらの構造物を美しいと表現したことに何ら不思議はない。問題は、これらが美しくないかということではなく、なぜ、安吾がこれらを美しいと感じたのかなのだ。そして、安吾はそれに対して独自の理念を展開している。

「この三つの物が、なぜ、かくも美しいか。ここには、美しくするために加工した美しさが、一切ない。美というものの立場から付加えられた一本の柱も鋼鉄もなく、美しくないという理由によって、取去った一本の柱も鋼鉄もない。ただ必要なもののみが、必要な場所に置かれた。そうして不要なる物はすべて除かれ、必要のみが要求する独自の形が出来上っているのである。

(中略)すべては、ただ、必要ということだ。そのほかのどのような旧来の観念も、この必要やむべからざる生成をはばむ力とは成り得なかった。そうして、ここに、何物にも似ない三つのものが出来上ったのである。」

彼のこの理論は、同時にそのまま彼の文学に当てはめることが出来る。事実、彼はその直後に「僕の仕事である文学が、全く、それと同じことだ。美しく見せるための一行があつてはならぬ。」と語っている。

現代ではすでに、文学＝芸術であるという考えは古くなった。戦後、あらゆる拘束が解かれ、表現の自由が保障されて以来、その文学の芸術性は興隆すべき筈が、逆に認識されつつも廃れ、寧ろ戦後民主主義的な人生の深淵を探ることが文学の意味となってきた。そういう中であつて戦後文学の創始者たる坂口安吾が、自らの作品に独自ではあるが明らかなる美論を用いているのは興味深い。谷崎潤一郎の様な、個人的な認識、確認により抽出された美論とは異なり、彼の美論は、一種、不変性を持っているといえる。彼のその美に対する思想は確実にどの時代にも適用するものであり、彼自身も「日本文化私観」の結末近くに、「それが真に必要なならば、必ずそこに真の美が生れる。」と述べることにより、暗にその美論が時代を超えて有効であるということを示している。

しかし、彼がその自己の文学中に望んだものは美ではない。美はあくまでも結果的に自然に生じたものであつて、彼が目指した文学の理想は別の所にある。それは作品と現実の一致である。

現実存在する物、人間や動物、植物をも含める全ての物は必要によってのみ成り立っていることは周知の事実であろう。しかしながら、坂口安吾以前の文学にあつては、その内包する世界は、決して必要のみに生まれたものではない。文学的誇張と言葉の嘘で築かれた明らかなる虚構の世界である。文学の華美を嫌い、自然

さを大前提として興った自然主義の私小説家でさえ、その例外ではない。嘘は無い。しかし、そこには歪められた現実と、文章によって勝手な解釈を加えられた事実のみが存在しているのだ。それは、奇しくも太宰治の「私はかつて『いい子』でなかった私小説の主人公を知らない。」という言葉によって証明され、安吾自身も「デカダン文学論」というエッセイの中で島崎藤村を「不誠実な作家」という表現をすることにより、それと同様のことを主張している。

しかし、元来文学とは作家の妄想を文章で肉付けした虚構であり、虚構としてそれすらも現実の一構成要素としてしまう広がりこそが文学の特質の一つではなかったのか。もしそうであれば、安吾の目指した姿勢は、一つの大きな矛盾を抱えることになる。

彼の矛盾とは、現実と虚構の境界を取り去ろうとする点にある。現実とは現実として、又、虚構は虚構として確たる存在を保っており、たとえ文学がその虚構を現実の内に取り込んでみても、そこにはハッキリと二つの世界の境界が提示されているものなのだ。その境界を取り除くことは事実上不可能である。もしそれをしようとすると、そういった態度こそが嘘になってしまう。

そういう意味で考えれば、彼が、その文学の特性として偶発の自然さを取り込んだのも彼が確たる作品スタイルを持ち得ずに、様々な形で実験的な作品を多く残したのも、当然のこの様に思えてくる。なぜならば、不可能に為る筈が無いからである。彼は不可能なことを追い求めてしまった。それ故に自分の住み家を持ち得ずに、彼はその巨大さの一側面しか我々に見せてはくれなかったのだ。理想が現実とならなければ、それは夢となってしまう様に、彼の理想は夢となってしまった。現実であればそれは万人が同じ事を目撃し得る。しかし、それが夢となってしまうと、全ては安吾の胸の内のものとなってしまう。我々が見ることが出来るのは、

彼の言葉だけなのだ。

「日本文化私観」とは多分そういった、彼の夢の言葉なのだ。元来、これ程に小説家が自己の作品に対する思想を端的に言及した例は少ない。なぜならば、その作品思想とは小説の中で示すべきものであり、それが出来ないことは、小説を書く以前の問題である。しかし坂口安吾の場合、自分が余りにも巨大すぎ、かつ自己の思想がその胸の内のみに存在してしまっている以上、作品ではない、言葉を以って端的にそれを示すしか方法がなかったのだ。「墮落論」と「白痴」にしてもそうだ。先に自分の考えを示してからそれに基づく小説を書いたのは、安吾以外には、日本文学の祖坪内逍遙しかいないのではなからうか。坪内逍遙の場合は、自分の前に歴史が無い以上、その歴史を始める意味の、宣言をしなくてはならなかった。それが「小説神髓」である。しかし、安吾の場合、作品にさえ自分の思想が現出してくれば、その必要は無かったのだ。不必要なものが必要であった。それこそが、安吾の抱えた矛盾の大きさの証明と成り得る。安吾自身も自分の抱え込んだ矛盾に気付いていたからこそ、「日本文化私観」「墮落論」といったエッセイを書いたのだ。皮肉ではあるが、そうする必要があったからこそ、彼は書かざるを得なかったのだ。

彼の言葉に次の様なものがある。

「芸術の長さと人生の長さは同じだ。私が死ねば、私は終る。私の芸術が残ったって、そんなことは私は知らぬ。」

「私は私の芸術が残るだの、死後に読まれるのだと、そんな期待はもっていない。」

この言葉は永い間、私には理解し得ない疑問であった。私は昔から、もし万人が認めた芸術や美が存在するならば、それは永遠不滅でなくてはならない、と思ってきた。ミロのビーナスにしても、サモトラケのニケにしても、作られたのは、遙か古代であったのに、その美は今現在においても十分に生きている。たとえば坂口

安吾にしても、彼の作品が芸術であるならば、それは永遠である筈だ。しかし、彼の目指す文学の抱える矛盾をつき合せて考えてみれば、彼の言うことも十分に理解出来る。なぜならば、彼の作品思想や芸術が、彼の矛盾によって、その胸の内に仕舞い込まれている以上、彼が死んでしまえば、その理想も芸術も、全て死んでしまうのだ。遺るのは、精神を失った小説のみである。

事実、終戦直後あれ程の人気を呼んだ坂口安吾の作品は、その文学史地位とは別に、大衆に廃れてきている。それは、一見、流行作家故の性であるように見えるが、実のところ、それは彼の作品の矛盾が生み出した自然消滅作用なのだ。

坂口安吾が死んだのは昭和30年、49歳の時である。死因は脳出血であると言われているが、それは事実上の自殺であった。彼は、悪いと判っていながら酒を飲み続けた。死ぬと判っていても飲んだのだ。坂口安吾はよく、書くことと生きることを同時に行なおうとした作家であると言われている。彼にしても、自己の作品とその思想の間に横たわる矛盾はどうしようもなかったのだ。それ故に、彼は現実と小説との一致を為し得る為に、作品を現実化しようとしたのみならず、現実の作品化、つまり生活を、自分の作品の一つとして位置づけようとしたのだろう。彼はその「日本文化私観」の美に就ての論述と「墮落論」の

「生きて堕ちよ、その正当な手順の外に、真の人間を救い得る便利な近道がありうるだろうか。」という言葉に基づいて、その必要と墮落に応ずる生活を続けたのだ。そして彼は死ぬ。それはやはり、自己の矛盾による自壊だったのだろう。

彼は、その作品と、自らの巨大さに殺された。戦後最後の文士だったのである。

全国高等学校文化連盟 基本調査 No. 1

		組織（加盟方法・加盟校数）					会 費（単位＝円）			
		学校 単位	部単位	専門部 単位	全高校数	加盟校数	全日制	定通制	盲聾養	そ の 他
1	北海道高等学校文化連盟	○			350	316	60	定通 10 1	10	
2	青森県高等学校文化連盟	○			82	82	100	50	50	
3	岩手県高等学校文化連盟	○			99	99	350	50	50	教職員 350
4	秋田県高等学校文化連盟	○			68	68	100		50	入会金 全日 盲聾養 200 100
5	山形県高等学校文化連盟	○			73	73	80	40	40	
6	福島県高等学校文化連盟	○			111	110	150	80	80	
7	茨城県高等学校文化連盟	○			148	135				1校 5,000
8	栃木県高等学校文化連盟	○			83	82	160	80	160	教職員生徒に同じ
9	群馬県高等学校文化連盟	○			86	86				学校規模別
10	埼玉県高等学校文化連盟			○	211	193				1部 4,000 1校 20,000
11	千葉県高等学校文化連盟	○			232	163	50			1部 2,000
12	東京都高等学校文化連盟		○		540	530				1部 3,000
13	山梨県高等学校文化連盟	○			55	48	200	一括 15,000	50	
14	新潟県高等学校文化連盟	○			119	85				学校規模別 入部生徒20
15	石川県高等学校文化連盟	○			76	76	100	一括 10,000		
16	福井県高等学校文化連盟	○			45	39	100	50	50	
17	長野県高等学校芸術文化協議会			○	106	106				1 専門部 1,000
18	岐阜県高等学校文化連盟		○		96	93	70			1校 200
19	静岡県高等学校文化連盟	○			162	155	100	100	50	
20	愛知県高等学校文化連盟	○			253	185	80	80	80	
21	三重県高等学校芸術文化連盟		○		88	57				1部 2,000 1校 200
22	滋賀県高等学校文化連盟	○			54	50				1校 2,000
23	京都府高等学校芸術文化連盟		○		110	83				部 - 規模別 1校 10,000
24	大阪府高等学校芸術文化連盟	○			315	272				1校 10,000
25	兵庫県高等学校芸術文化連盟			○	220	200				1 専門部 5,000
26	奈良県高等学校文化連盟	○			70	70	50	10		
27	和歌山県高等学校文化連盟	○			53	41	100	50	50	
28	鳥取県高等学校文化連盟	○			38	36	100	50		
29	島根県高等学校文化連盟	○			54	44	250	110	110	教職員 250
30	岡山県高等学校文化連盟	○			115	115	100			
31	広島県高等学校芸術文化連盟	○			155	103				学校規模別
32	山口県高等学校文化連盟	○			93	91	100	50	50	全日入会金 100
33	徳島県高等学校文化連盟	○			49	47	80	30	30	教職員生徒に同じ
34	香川県高等学校文化連盟	○			42	40	200			教職員 100
35	愛媛県高等学校文化連盟	○			72	71	100	50	50	教職員 100
36	高知県高等学校芸術団体協議会			○	45	35				出品料、参加料
37	福岡県高等学校芸術・文化連盟	○			207	163	100	50	50	
38	熊本県高等学校文化連盟	○			85	85	200	定 50 一校 3,000		通信 1校 3,000
39	大分県高等学校文化連盟	○			81	79	280	140	140	
40	宮崎県高等学校文化連盟	○			63	57	300	150	150	
41	沖縄県高等学校文化連盟	○			64	64	150	80		

平成元年1月調査

連盟予算(単位=千円)			県費補助内訳 (単位=千円)				前年度比	来年度見通し	
予算総額	連盟費	県補助費	文化祭等	全国高総文 祭派遣費	運営費等	その他	県費補助	会費	県費補助
15,809	14,504	1,305	1,305				同	同	未定
7,109	6,934	175		※825	175		110千	同	同
37,224	21,908	15,163	1,000	14,163			5,127千	同	減
9,000	8,000	720		720			同	同	同
7,798	4,158	2,425		925	1,500		同	値上げ	同
20,014	12,264	3,500	県費補助有				500千	同	同
9,554	1,135	8,419	2,866	5,553			3,760千	同	減
19,400	14,900	3,000			3,000		500千	同	減
4,380	3,100	1,280		1,030	250		418千	同	未定
26,164	9,416	16,747		12,617	4,130		7,297千	同	増
年度途中結成のため以下空欄									
14,084	984	13,100	10,025	2,431	644		同	同	同
10,634	10,503	県直接支払					1,300千	値上げ	未定
10,577	6,577	4,000	2,150	1,850			同	同	同
8,833	5,540	3,152	2,500	652			113千	同	減
3,914	3,351	560			560		同	同	未定
18,288	562	17,726	3,000	全国大会含 14,726			1,962千	同	未定
11,783	8,118	2,165	1,865	300			125千	値上げ	増
36,807	16,057	13,350	3,000	2,500		芸能鑑賞教室 7,850		同	未定
28,250	17,840	6,000	区分なし				100千	同	同
9,889	1,862	8,027	2,500	1,678		近畿総文 3,849	不明	未定	未定
5,335	100	5,235	2,600	1,275		近畿総文 1,360	475千	同	未定
5,403	1,399	3,867	3,867					同	同
7,515	2,720	4,300	近畿総文含 4,300				同	同	同
8,953	198	8,685	6,300	1,443		近畿総文 942	△265千	同	未定
13,736	3,036	10,700	4,500	2,000	500	近畿総文 3,700	2,150千	同	減
8,611	4,230	4,381	1,938	579	270	近畿総文 1,594	同	同	同
4,813	3,013	1,800	800	1,000			同	同	同
9,830	8,330	約1,500	県より直接支払				同	同	未定
13,198	8,950	300				強化費 300	同	同	減
4,563	2,563	2,000	2,000				同	同	同
14,436	9,565	4,200	2,200	2,000			△880千	同	同
3,952	3,152	800				活動費補助 800	同	同	同
11,277	9,477	1,800	900	600	300		同	同	記入無
14,251	7,289	6,962	4,962	2,000			446千	同	同
3,410	2,270	1,140	1,140				同	同	同
21,500	18,500	3,000	3,000				同	同	同
22,047	17,800	747		747			△5,896千	同	未定
17,580	15,480	1,900	1,000	900			△80千	同	未定
17,300	14,000	3,300	1,900	1,400			△200千	同	同
48,707	8,707	40,000		2,336	6,300		2,700千	値上げ	未定

千円未満切捨

※別会計 - 39 -

数字は増額分 △減額

全国高等学校文化連盟 基本調査 No.2

		県 高 文 連 事 業			
		地区発表	部 門 発 表	研 修 会 ・ 講 習 会	そ の 他
1	北海道高等学校文化連盟	13/13	全専門部	㊤弁・演・美・書・図書・写㊦写真	
2	青森県高等学校文化連盟	専門部毎	全専門部	㊤㊦演・合唱・吹・美・写・放	
3	岩手県高等学校文化連盟	10/11	全専門部	㊤文・書・美・合唱・吹・器管㊥新聞・吟㊦演・囲	合宿(演劇)
4	秋田県高等学校文化連盟	3/3	合・吹・郷・放・演・美・書・写	㊤放送・新聞・合唱・写真	合宿(文芸)
5	山形県高等学校文化連盟	5/5	吹・演・合・美・科・管・放	㊤全専門部	
6	福島県高等学校文化連盟	6/6	演・合唱・吹・放・囲・将・農・工・家・科・定・通	㊤㊦演・合唱・吹・器・美・写・放・農・家・科㊥㊦書	鑑(音・演)
7	茨城県高等学校文化連盟	演・音		㊤写・演・吹・放・合唱・無線・マバ㊥写	合宿(無線・鑑(書))
8	栃木県高等学校文化連盟		放・音・美・郷・マバ・定・日・演・吟・来・筆・書	㊤㊦マバ・茶華・音・美・JRC	鑑(国際教育)
9	群馬県高等学校文化連盟		音・演・写・書・美	㊥㊦書道	
10	埼玉県高等学校文化連盟		演・音・写・書・美・邦・マバ		
11	千葉県高等学校文化連盟				
12	東京都高等学校文化連盟	専門部毎	音・演・放・写		
13	山梨県高等学校文化連盟	3/3	囲・演・合・家・茶・自・写・美・書・吹・農・マバ・放・ユ・商・工・定	㊤演・合唱㊥家庭・茶・農業・マバ・ユ	合宿(演劇)
14	新潟県高等学校文化連盟	4/4	演劇・合唱	㊤㊦演・放・合唱㊥㊦吹・写	鑑(音楽)
15	石川県高等学校文化連盟	3/3	文・放・吹・新聞・英語	㊤演・吹・無線・邦楽・茶道	合宿(新聞・JRC)文化教室
16	福井県高等学校文化連盟		演・合・吹・器・放・マ・美・書・写・邦・創作・美・作・囲・計・実・美・弁	㊤㊦音・写・演・放・マーチング	
17	長野県高等学校芸術文化協議会		全専門部	㊤全専門部	
18	岐阜県高等学校文化連盟	7/7	全専門部	㊤演・吹・合唱・器楽・書・写	
19	静岡県高等学校文化連盟		音・美・書・写・囲・将・放・演	㊥㊦音楽・写真・囲碁	芸能鑑賞教室
20	愛知県高等学校文化連盟		全専門部		鑑(吹奏楽)
21	三重県高等学校芸術文化連盟				
22	滋賀県高等学校文化連盟		吹奏楽	㊤㊦演劇㊥㊦演劇	部門毎合宿
23	京都府高等学校芸術文化連盟		合唱・器吹・ハ・邦・演・写・美・書		
24	大阪府高等学校芸術文化連盟	2/9		㊤バトン	
25	兵庫県高等学校芸術文化連盟				
26	奈良県高等学校文化連盟		合・吹・マバ・演・美・書・写・放	㊤吹・美・書㊥バトン・写㊥音	合宿(書・マバ)
27	和歌山県高等学校文化連盟			㊤㊦合唱・吹・器・楽・演・写・囲・将・英語	合宿(書道)
28	鳥取県高等学校文化連盟		全専門部		
29	島根県高等学校文化連盟		全専門部	㊤自然科学・美・演・書・写	鑑(美・写・書・演・音・文)
30	岡山県高等学校芸術連盟			㊥㊦演劇	鑑賞会
31	広島県高等学校芸術文化連盟				
32	山口県高等学校文化連盟			㊤演劇	鑑(音・演)
33	徳島県高等学校文化連盟		書道	㊤㊦写真	
34	香川県高等学校文化連盟		放送	㊤全専門部㊥マーチング	
35	愛媛県高等学校文化連盟		美工・書道・写真	㊤㊦写真・マバ・邦楽	
36	高知県高等学校芸術団体協議会				
37	福岡県高等学校芸術・文化連盟	4/4	音・美・書・写・演・弁論	㊤音楽・美術・書道・写真・演劇	鑑(美・音)
38	熊本県高等学校文化連盟	演・音	理・科・図書・文芸・弁論・囲	㊤書道・演劇・バトン㊥マーチング	鑑賞会
39	大分県高等学校文化連盟	1/7	全専門部	㊤全専門部	合宿(全専門部除・職業・英語)
40	宮崎県高等学校文化連盟		音楽・吹奏・演劇	㊤㊦演・美・書・写・百人一首	鑑賞会
41	沖縄県高等学校文化連盟			㊤弁論・放送・農業・家庭	

地区発表：開催地区数/全地区数 民：民族芸能 ユ：ユネスコ 科：科学 自：自然科学 文：文芸 計実：計算実務
鑑：芸術鑑賞 ㊤：生徒・指導者対象 ㊥：生徒対象 ㊦：指導者対象 ㊧：補助有り

平成元年1月調査

専 門 部 数 総数	全 国 高 文 連 設 置 外	専 門 部 増 予 定 部 間	印 刷 物			事 務 局 校			専 用 部 屋	事 務 局 員		
			会報(回)	集録	そ の 他	固定	輪番(年)	そ の 他		人 数	兼 人	配 慮 事 項
11	5		○(2)	○				会 長 校		4	教諭他	な し
10	1	JRC	○(1)	○				会 長 校		5	教 諭	な し
19	6		○(1)	○	新聞専門部 生徒文芸集	○			○	7	教 諭	一部時数減
10	0	囲碁		○		○				6	教 諭	な し
9	0		○(1)	○	要 覧	○				2	教 諭	な し
17	9	国際教育JRC	○(2)	○				未 定		3	教 諭	長・時数減
9	1		○(1)			○				3	教諭他	な し
22	10	音→合唱・吹 器管	○(1)	○				会 長 校		7	教諭他	な し
5	0		○(2)	○		○				6	教諭他	な し
9	0	将・郷・吟・放	○(3)			○				8	教諭他	な し
11	0											
7	0	美工	○(1)				○(2)			10	教諭他	な し
25	11		○(1)					事 務 局 校 事 長		5	教 諭	な し
10	2	囲碁	○(1)	○		○			○	3	教 諭	長・時数減
18	11	囲碁	○(1)		年 間 行 事 一 覧 表	○				3	教 諭	長・時数減
19	8			○		○				2	教 諭	な し
9	1	放送					○(2)			4	教 諭	長・時数減
9	0	囲・将・民	○(2)			○				5	教 諭	な し
12	3	カルタ無線	○(1)					高 長 協 会 事 務 局		1	○	
12	1		○(2)				○(1)			2	教 諭	な し
10	0							会 長 校		1	教 諭	時 数 減
10	2	放送		○			○(3)			3	教 諭	長・時数減
10	0	未定	○(1)	○				検 討 中		7	行 政	な し
11	0		○(1)	○				教 委		7	行 政	な し
8	0							会 長 校		1	事務長	な し
11	0		○(2)	○		○				8	教 諭	長・時数減
11	1	文芸・定通	○(1)	○				○		5	教諭他	な し
6	0						○(2)			1	教 諭	な し
10	5	パソコン・本華 JRC・放囲将	○(2)	○	部門毎集録		○(2)			4	教 諭	な し
9	1	マバ・吟・郷	○(1)			○				6	行 政	な し
6	0						○(2)			1	事務長	な し
10	0	囲碁	○(1)			○				4	教 諭	時 数 減
5	0			○		○				4	教 諭	な し
10	1		○(1)	○		○				2	教 諭	時 数 減
10	0		○(1)					会 長 校		2	教諭他	な し
7	1	放送・文芸				○				3	教 諭	な し
6	2	放合唱吹		○		○				2	教諭他	長・時数減
13	6	有						未 定		4	教 諭	長・学担免
15	7			○			○(2)			3	教 諭	有
8	2			○		○				2	教諭他	な し
15	8	簿・日音・書 号・吟・囲将		○				○		2	教諭他	長・時数減

他：事務職員等を含む

第14回全国高等学校総合文化祭開催要綱

1 趣 旨

全国都道府県代表の高等学校生徒による芸術文化活動の発表を総合的に開催し、創造活動の向上を図るとともに、相互の交流を深めることにより、芸術文化の振興に資する。

2 主催・後援・協賛

- (1) 主催／文化庁、全国高等学校文化連盟、山梨県、山梨県教育委員会、甲府市、甲府市教育委員会、富士吉田市、富士吉田市教育委員会、塩山市、塩山市教育委員、石和町、石和町教育委員会、白根町、白根町教育委員会、山梨県高等学校文化連盟
- (2) 後援／都道府県教育長協議会、全国高等学校長協会、山梨県高等学校長協会、山梨県私立中学校・高等学校連合会
- (3) 協賛／全日本吹奏楽連盟、全日本合唱連盟、日本三曲協会、全日本アマチュア演劇協議会、日本吟剣詩舞振興会、全日本書写書道教育研究会、全日本マーチングバンド・バトントワリング連盟、全国高等学校視聴覚教育研究協議会、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、産経新聞社、日本経済新聞社、山梨日日新聞社、日本放送協会、山梨放送、テレビ山梨、山梨県CATV局連絡協議会、共同通信社、時事通信社、山梨県商工会議所連合会、山梨県商工会連合会、東日本旅客鉄道、東海旅客鉄道静岡支社、山梨交通、富士急行

3 期 間／平成2年8月1日(水)～8月8日(水)

4 開催行事／(1) パレード……………甲府市内

(2) 総合開会式(式典・交歓会)…山梨県立県民文化ホール大ホール

5 開催種目及び会場／(1) 演 劇……………山梨県立県民文化ホール大ホール

(2) 合 唱……………山梨県立県民文化ホール大ホール

(3) 吹 奏 楽……………山梨県立県民文化ホール大ホール

(4) 器楽・管弦楽……………白銀桃源文化会館

(5) 日 本 音 楽……………塩山市中央公民館

(6) 吟 詠 剣 詩 舞……………山梨県立県民文化ホール小ホール

(7) 郷 土 芸 能……………富士五湖文化センター

(8) マーチングバンド・バトントワリング ……小瀬スポーツ公園・体育館

(9) 美 術・工 芸……………山梨県立美術館

(10) 書 道……………山梨県立文学館

(11) 写 真……………山梨県県民会館展覧会場

(12) 放 送 文 化……………石和町スコーレセンター

6 内 容

(1) 総合開会式、パレード

(2) 演劇……ブロック代表による演劇上演、講習、研究協議

(3) 合唱、吹奏楽、器楽・管弦楽、日本音楽、吟詠剣詩舞、郷土芸能、マーチングバンド・バトントワリング……各都道府県教育委員会から推薦された優秀校による演奏及び演技発表

(4) 美術・工芸、書道、写真……各都道府県教育委員会から推薦された優秀作品の展示

(5) 放送文化……各都道府県教育委員会から推薦された優秀校による演技発表及び優秀作品の映写

7 協賛部門／農業クラブ、茶道、新聞の展示・発表等を行う。(各会場)

8 実施組織／行政機関、教育機関、関係団体からなる実行委員会を設置し、この事務局を山梨県教育委員会文化課に置く。

9 経 費／全国高等学校総合文化祭の開催に要する費用は、文化庁、全国高等学校文化連盟及び山梨県、山梨県高等学校文化連盟が負担する。

山口県高等学校文化連盟規約

第1章 総 則

(名称)

第1条 この連盟は、山口県高等学校文化連盟と称する。

(事務局)

第2条 本連盟の事務局を山口市中園町2番8号山口中央高等学校に置く。

(目的)

第3条 この連盟は、高等学校における生徒の創造活動の向上充実を図り、文化活動の健全な発展と芸術文化の振興に資することを目的とする。

(事業)

第4条 この連盟は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 山口県内の高等学校等による文化行事の開催に関する事業
- (2) 全国高等学校文化連盟が主催する行事への派遣に関する事業
- (3) 芸術文化に関する研修会、講習会、観賞会、講演会等の開催に関する事業
- (4) 高等学校等の文化活動に関する調査研究事業
- (5) 高等学校による文化活動の国際交流に関する事業
- (6) その他前条の目的の達成に必要な事業

(組織)

第5条 この連盟は、山口県内の公立及び私立すべての高等学校並びに高等部を設置している盲学校、ろう学校及び養護学校をもって組織する。

2 山口県内を七つの地域に分け、地域ごとに連合体を組織することができる。この場合において、地域の区分は、山口県高等学校校長会の区分と同じものとする。

第6条 この連盟に、部門別の専門部を置く。

2 専門部は、当分の間、演劇、器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・バトン・トワーリング、日本音楽、吟詠剣詩舞、美術・工芸、書道、写真、囲碁等の各部門とする。

第2章 役 員

(役員)

第7条 この連盟に次の役員を置く。

- | | |
|---------------|---------------|
| (1) 会 長 1人 | (4) 支部長 7人 |
| (2) 副会長 若干人 | (5) 専門部会長 11人 |
| (3) 評議員 91人以上 | (6) 専門部理事 11人 |
| (会長及び副会長を含む。) | (7) 監 事 2人 |

(役員を選出)

第8条 役員を選出は、次のとおりとする。

- (1) 会長及び副会長は、評議員の互選により選出する。
- (2) 評議員は、加盟校の校長をもって充てる。
- (3) 支部長・専門部会長・専門部理事は、各地域及び専門部の推薦に基づき、会長が委嘱する。
- (4) 監事は、評議員会の推薦に基づき、会長が委嘱する。

2 役員の兼任は妨げない。

(役員の職務)

第9条 役員の職務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、この連盟を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を行う。
- (3) 評議員は、評議員会に出席し、この連盟の事業について審議する。
- (4) 支部・専門部会長・専門部理事は、企画運営委員会を構成し、この連盟の会務を審議し、執行する。
- (5) 監事は、会計を監査する。

(役員の任期)

第10条 役員は高等学校等に在職する者とし、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 役員に欠員が生じたときは、必要に応じて補充する。ただし、任期は、前任者の残任期間とする。

第3章 会 議

(会議)

第11条 この連盟の会議は、次に掲げるとおりとし、会長が必要に応じて、これを招集する。

- (1) 評議員会 (3) 理 事 会

- (2) 企画運営委員会

- 2 会議の議長は、会長がこれに当たる。

- 3 会議は、構成員の2分の1以上の出席がなければ、開会することができない。

- 4 会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決定する。

- 5 会議に出席できない構成員は、代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、会議に出席したものとみなす。

(評議員会)

第12条 評議員会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 規約の制定及び改廃に関する事項 (3) その他連盟の運営に係る重要事項

- (2) 予算及び決算に関する事項

(企画運営委員会)

第13条 企画運営委員会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 評議員から委任された事項 (3) その他連盟の運営に係る軽易な事項

- (2) 会務の運営及び執行に関する事項

- 2 企画運営委員会に事業の運営及び執行のために委員会を置くことができる。

- 3 委員会は、事業を主管する学校長を委員長とし、委員として当該事業担当の教職員若干人及び専門教職員をもってこれに充てる。

- 4 委員会の委員の任命及び委員会議の招集は、委員長が行うことができる。

(理事会)

第14条 理事会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 企画運営委員会から委任された事項 (2) その他各専門部の運営に係わる事項

第4章 会 計

(経費)

第15条 この連盟の経費は、各高等学校等の分担金、県内の高等学校等の生徒の会費、補助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第16条 この連盟の収支予算は、評議員会の決議により定め、収支決算は、会計年度終了後、監事の監査を経て次の評議員会でその承認を得なければならない。

(会計年度)

第17条 この連盟の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会計経理)

第18条 この連盟の会計経理の手続については、企画運営委員会の議決を経て別に定める。

第5章 事 務 局

(事務局)

第19条 この連盟の事務を処理するため、事務局を置く。

(運営)

第20条 事務局の運営に関しては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第6章 雑 則

第21条 この連盟の規約の施工について必要な事項は、評議員会の議決を経て、別に定める。

附 則

この規約は、平成元年4月1日から施行する。

山口県高等学校文化連盟 昭和63年度決算書 平成元年度予算書

収 入 総 額 ¥ 15,231,548
支 出 総 額 ¥ 13,788,063
差 引 残 額 ¥ 1,443,485

収入の部

(単位 円)

区 分	予 算 額	決 算 額	増減(△減)	摘 要	予 算 額	内 訳
繰 越 金	1,224,810	1,224,810	0		1,443,485	
会 費	9,400,000	9,485,450	85,450	全日制、定時制 盲聾養	9,600,000	全日制(1年) 200 円 " (2・3年) 100 円 定 時 制 50 円 盲 聾 養 50 円
学校分担金	165,000	174,900	9,900		166,500	1,665 学級×100 円
補 助 金	3,640,000	4,337,400	697,400	山口県、全国高文連	5,430,000	山口県、全国高文連
雑 収 入	7,000	8,988	1,988	利息	8,000	利息
合 計	14,436,810	15,231,548	794,738		16,647,985	

支出の部

区 分	予 算 額	決 算 額	増減(△減)	摘 要	予 算 額	内 訳
運 営 費	1,378,000	1,336,776	41,224	臨時職員雇用 複写機、事務用品 通信費	920,000	A V機器 通信費 事務用品
会 議 費	1,600,000	1,381,841	218,159	理事会、事務局旅費	1,600,000	企画運営委員会 事務局旅費 専門部理事会
事 業 費	7,633,000	7,236,756	396,244	県総文(式典音楽、 邦吟、展示、演劇) 自主事業(県交響楽 団、ピアノ、演劇、マ リンバ・フルート) 会報、ポスター	8,774,000	県総文、自主事業 会報(2)、ポスター
活動補助費	3,525,000	3,777,690	△ 252,690	全総文派遣 全国高文連山口県分 担金	4,450,000	全総文派遣(289名) 全国高文連会費分担金
予 備 費	300,810	55,000	245,810	テープカット費	903,985	
合 計	14,436,810	13,788,063	648,747		16,647,985	

4月24日山口中央高校にて監査、上記の通り相違ありません。 小松 英三・福田昌章

山口県高等学校文化連盟役員一覧表

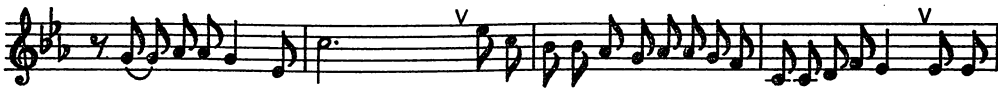
職 名	氏 名	支 部 ・ 部 門	所 属 校
会 長	五十部 益 一		山口中央高校
副 会 長	安 本 良 夫		岩 国 高 校
〃	山 本 八 造		下 関 西 高 校
〃	津 田 正 人		中 村 女 子 高 校
支 部 長	安 本 良 夫	岩 国 支 部	岩 国 高 校
〃	佐々川 武	柳 井 支 部	柳 井 高 校
〃	田 中 克	徳 山 支 部	徳 山 高 校
〃	五十部 益 一	山 防 支 部	山口中央高校
〃	河 中 正 登	宇 部 支 部	宇 部 高 校
〃	橋 本 賢 郎	下 関 支 部	下 関 南 高 校
〃	松 原 弘	長 北 支 部	萩 高 校
専 門 部 会 長	作 間 源 治	演 劇 部 門	厚 狹 高 校
〃	橋 本 賢 郎	器楽・管弦楽部門	下 関 南 高 校
〃	藤 本 正 信	合 唱 部 門	宇 部 中 央 高 校
〃	増 野 克 巳	吹 奏 楽 部 門	防 府 高 校
〃	古 谷 信 成	マーチングバンド バトントワーリング部門	宇 部 女 子 高 校
〃	津 田 正 人	日 本 音 楽 部 門	中 村 女 子 高 校
〃	山 田 利 夫	吟詠剣詩舞部門	下 関 工 業 高 校
〃	福 岡 昌 章	美術・工芸部門	宇 部 商 業 高 校
〃	増 野 克 巳	書 道 部 門	防 府 高 校
〃	安 本 良 夫	写 真 部 門	岩 国 高 校
〃	西 村 昭 正	囲 碁 部 門	宇 部 鴻 城 高 校
専 門 部 理 事	西 村 司	演 劇 部 門	厚 狹 高 校
〃	松 永 忠 雄	器楽・管弦楽部門	下 関 南 高 校
〃	中 尾 綾 子	合 唱 部 門	宇 部 中 央 高 校
〃	重 広 昭 雄	吹 奏 楽 部 門	防 府 高 校
〃	花 村 慈 照	マーチングバンド バトントワーリング部門	宇 部 女 子 高 校
〃	中 野 靖 子	日 本 音 楽 部 門	中 村 女 子 高 校
〃	辛 嶋 茂 樹	吟詠剣詩舞部門	下 関 工 業 高 校
〃	岸 勤	美術・工芸部門	宇 部 商 業 高 校
〃	荒 瀬 宏	書 道 部 門	防 府 高 校
〃	環 乃 琢司郎	写 真 部 門	岩 国 高 校
〃	黒 瀬 孝 泰	囲 碁 部 門	宇 部 鴻 城 高 校
監 事	小 松 英 三		防 府 商 業 高 校
〃	福 岡 昌 章		宇 部 商 業 高 校
事 務 局	窪 田 恵		山口中央高校
〃	甲 田 俊 夫		山口中央高校
〃	中 邑 立 夫		山口中央高校
〃	古 屋 元 子		山口中央高校

全国高文連の歌

全国高等学校文化連盟制定
向 川 栄 美 作 詞
乗 松 美 紀 作 曲



1. てをのばせば ほら きつと だれかがさえて くれる
2. よびかければ ほら きつと だれかがこたえて くれる



みーわたせ ー ば ほら なかまがいつでも そばにいる きみ
こころをひら け ば ほら なかまはいつでも まっている きみ



は ひとりじゃない さあ ある きだ そ う
は ひとりじゃない さあ は ばた そ こ う



ぼくらの おん か を つく る た め ー に
ぼくらの おん か を きづ く た め ー に

全国高文連の歌

一、手を伸ばせば ほら

きつと誰かが支えてくれる

見渡せば ほら

仲間がいつでもそばにいる

君は一人じゃない

さあ 歩きだそう

僕等の文化を創るために

二、呼びかければ ほら

きつと誰かが応えてくれる

心を開けば ほら

仲間がいつでも待っている

君は一人じゃない

さあ 翔こう

僕等の文化を築くために

編集後記

山口県高等学校文化連盟は、昭和62年発足以来毎年高文連会報（加盟高等学校の各学級に一枚宛配付）を出し、山口県高文連活動の一年間にわたる諸事業を紹介してきました。平成元年度は全国47都道府県にすべて高文連組織が揃い、全国高等学校文化連盟のもとに結集するという意義ある年になりました。山口県高文連では、この年に集録高文連を刊行することになりました。11専門部の活動報告を中心にして、県高文連の年間のさまざまな行事、規約などを収録しています。専門部の活動報告は各専門部理事に執筆をしていただきました。今後は生徒の皆さんの活動報告・参加報告などを増やし、紙面を充実していきたいと思います。

山口県高等学校文化連盟集録

「高文連」編集委員

合 唱	中 尾 綾 子（県立宇部中央高等学校）
マーチングバンド・ バトントワーリング	花 村 慈 照（宇部女子高等学校）
器楽・管弦楽	松 永 忠 雄（県立下関南高等学校）
吹 奏 楽	重 広 昭 雄（県立防府高等学校）
演 劇	西 村 司（県立厚狭高等学校）
日 本 音 楽	中 野 靖 子（中村女子高等学校）
吟詠剣詩舞	辛 嶋 茂 樹（県立下関工業高等学校）
美 術・工 芸	岸 勤（県立宇部商業高等学校）
書 道	荒 瀬 宏（県立防府高等学校）
写 真	環 乃 琢司郎（県立岩国高等学校）
囲 碁	黒 瀬 孝 泰（宇部鴻城高等学校）

（事務局）

事 務 局 長	窪 田 恵（県立山口中央高等学校）
総 務	甲 田 俊 夫（ ” ）
庶 務	中 邑 立 夫（ ” ）
会 計	古 屋 元 子（ ” ）

平成元年度
山口県高等学校文化連盟集録
「高文連」

編集・発行 山口県高等学校文化連盟事務局
〒753 山口市中園町2-8
山口県立山口中央高等学校内
電話0839-32-0818
印刷 A&C-CREATE co.,ltd.
〒753 山口市中園町1-3-106 電話0839-25-0757

